



Parallels Remote Application Server

Windows 用 Parallels Client ユーザーガイド

v15

Parallels IP Holdings GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス
Tel : + 41 52 632 0411
FAX : + 41 52 672 2010
www.parallels.com/jp

Copyright © 1999-2016 Parallels IP Holdings GmbH and its affiliates. All rights reserved.

この製品は、米国著作権法および国際著作権条約およびその他の知的所有権条約によって保護されています。製品の基本となる技術、特許、および商標は、<http://www.parallels.com/jp/trademarks> に一覧表示されています。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows NT、Windows Vista、および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Apple、Mac、Mac ロゴ、Mac OS、iPad、iPhone、iPod touch、FaceTime HD カメラおよび iSight は米国およびその他の国における Apple Inc. の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

ここに記載したその他のマークおよび名前は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

目次

スタートアップ	5
システム要件	5
招待メールを使用した Parallels Client のインストール	5
Parallels Client の手動インストール	11
Parallels Client の手動によるダウンロードおよびインストール	11
Parallels Remote Application Server への接続	15
高度な Parallels Client インストール	19
Windows 用 Parallels Client の使用	22
新しい接続の追加	22
RAS 接続の構成	25
接続	26
表示	29
印刷	31
スキャン	34
ローカルリソース	36
エクスペリエンス	37
ネットワーク	38
認証	38
詳細設定	38
RDP 接続の構成	40
接続	41
表示	43
ローカルリソース	45
プログラム	46
エクスペリエンス	47
ネットワーク	48
認証	48
詳細設定	48

グローバルオプションの構成	50
RAS 接続の使用	54
RDP 接続の使用	56
フォルダーを使用した RDP 接続のグループ化	57
Parallels Client 設定のエクスポートおよびインポート	57
Parallels Client コマンドラインパラメーター.....	58
インデックス	60

第 1 章

スタートアップ

この章の内容

システム要件.....	5
招待メールを使用した Parallels Client のインストール.....	5
Parallels Client の手動インストール.....	11

システム要件

Windows コンピューターに Parallels Client をインストールする前に、システムが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Windows XP SP3、Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 10 のいずれか。
- 上記のバージョンの Windows について、Microsoft が指定しているのハードウェア要件。
- 一部の機能（High Color グラフィック、サウンドなど）は、Windows コンピューターに適切なハードウェアがインストールされており、適切に構成されている場合のみ利用できます。

招待メールを使用した Parallels Client のインストール

Windows 用の Parallels Client のインストール方法と Parallels Remote Application Server 接続の構成方法が記載された招待メールがシステム管理者から送信されます。招待メールには、以下の情報とアクションリンクが含まれます。

- システム管理者からのメッセージ。
- Windows 用の Parallels Client をダウンロードするためのリンク（Windows コンピューターに加えて他のデバイスも使用している場合は他のプラットフォーム用の Parallels Client へのリンクも含まれていることがあります）。
- ユーザーのコンピューター上で Parallels Client を自動的に構成するためのリンク。これにより、Parallels Remote Application Server に接続できます。

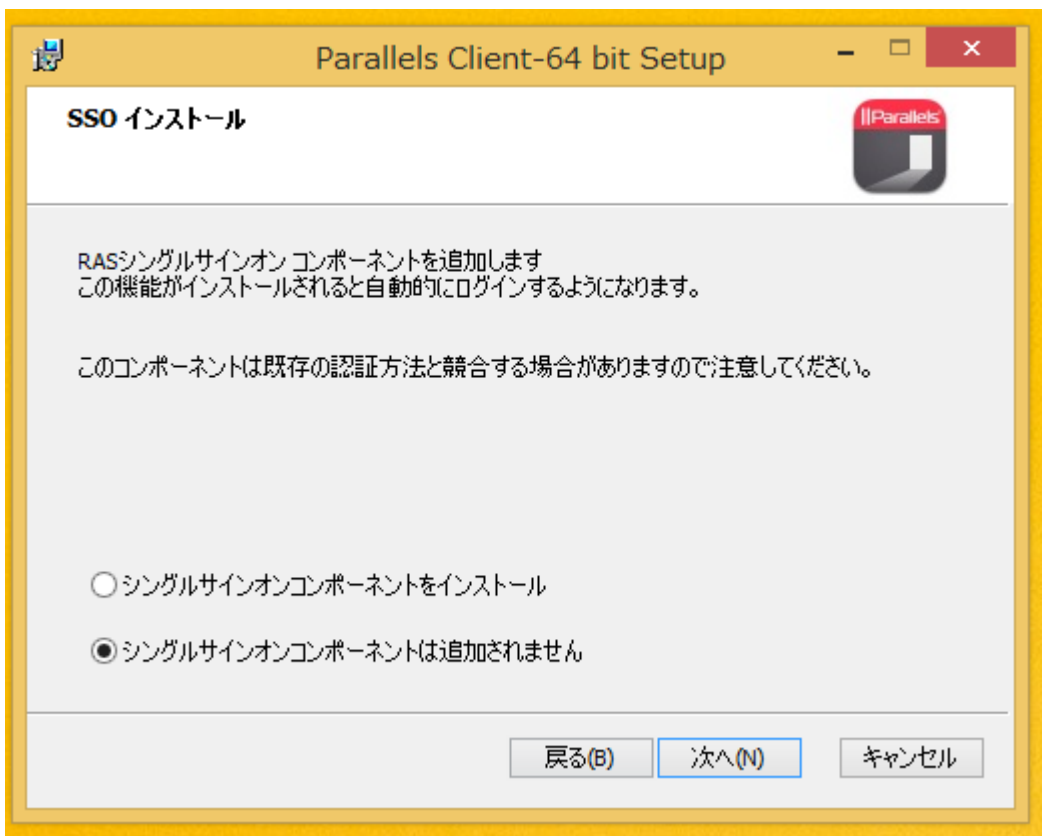
- Parallels Remote Application Server 接続のプロパティ。この情報を使用して Parallels Remote Application Server 接続を手動で作成できます。推奨される最も簡単な方法はリンクを使用して自動構成すること（上記を参照）ですが、何らかの理由により接続を手動で作成する必要がある場合は、この情報を使用できます。

招待メールを使用して Windows 用の Parallels Client をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 管理権限を持つユーザーとしてコンピューターにログインしていることを確認します。
- 2 招待メール内の Windows サムネイルをクリックし、Windows 用の Parallels Client インストーラーをダウンロードします。
- 3 ダウンロードが完了したら、ダウンロードフォルダーに移動し、ダウンロードした ClientDownloader.exe ファイルを実行します。これは、実際には、実行している Windows バージョンを検出し、Windows 用の適切な Parallels Client インストーラーをダウンロードする小さなユーティリティです。
- 4 ダウンロードが完了すると、Parallels Client インストールウィザードが自動的に開始されます。
- 5 インストールウィザードの［ようこそ］ページで、［次へ］をクリックします。



- 6 使用許諾契約書に同意し、[次へ] をクリックします。
- 7 Parallels Client をインストールするフォルダーを選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 Parallels Client を Windows Server オペレーティングシステムにインストールする場合、[SSO インストール] ページはスキップされます。サポートされるその他の Windows バージョンの場合、このページが表示されます。このページを使用して、[シングルサインオン] コンポーネントをインストールするかどうかを指定します。このコンポーネントは、ユーザーの資格情報を使用して Parallels Remote Application Server に自動的に接続されます。このコンポーネントを機能させるには、インストール後にコンピューターを再起動する（またはログオフして再度ログオンする）必要があります



- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 [インストールする準備ができました] ページで [インストール] をクリックします。

- 11** インストールが完了すると、ウィザードの最終ページが表示されます。



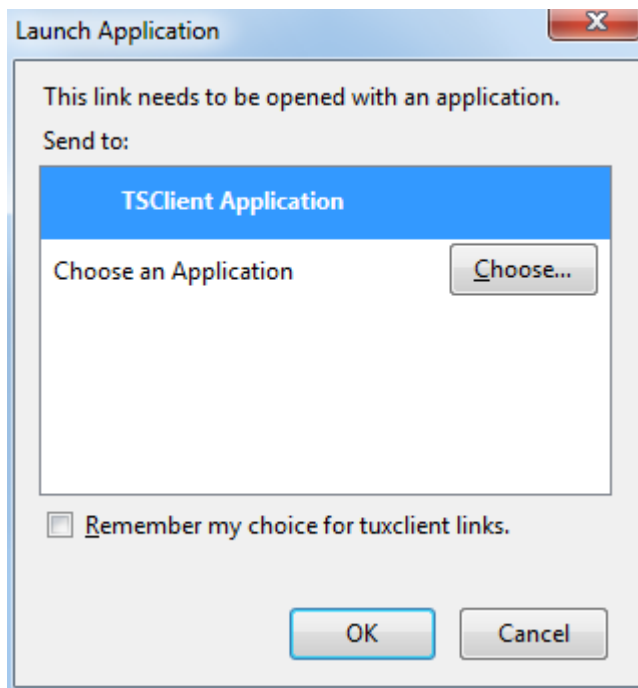
- 12** [Parallels Client の起動] オプションをクリアし（ここではまだプログラムを開始しません）、[完了] をクリックして、ウィザードを閉じます。

ここで、Parallels Client を構成し、Parallels Client を Parallels Remote Application Server に接続できるようにする必要があります。システム管理者から受け取った招待メールには、このタスクを自動的に完了できるリンクが含まれています。以下の指示に従って、Parallels Client を構成します。

Windows 用の Parallels Client を構成するには、次の手順を実行します。

- 1** 招待メール内の [構成] セクションを探し、[ダウンロードされたクライアントを自動構成するにはこちらをクリックしてください] リンクをクリックします。

- 2 ウェブブラウザでリンク先が開き、次のダイアログが表示されます。



- 3 [TSClient アプリケーション] アイテムが選択されていることを確認して、[OK] をクリックします。これにより、Windows 用の Parallels Client が構成され、[ログオン] 画面が表示されます。



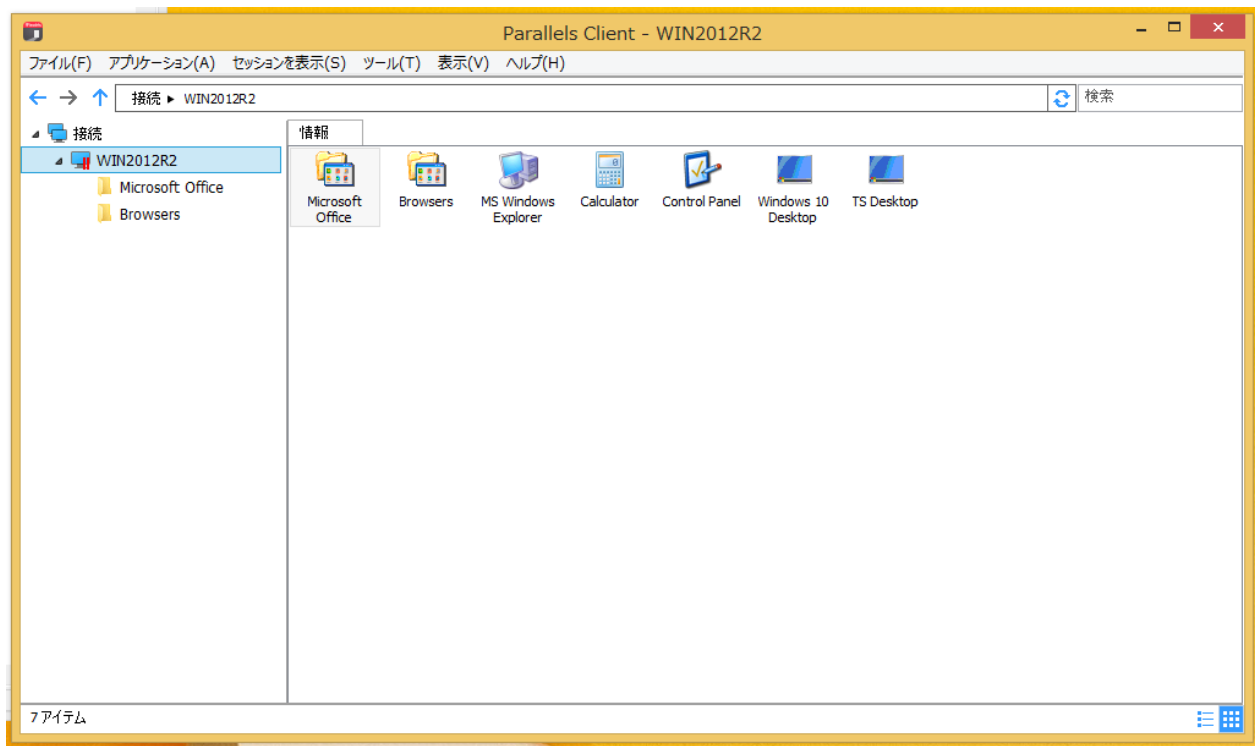
- 4 次のいずれかの「認証タイプ」を選択します。

- 資格情報：ドメインユーザー名とパスワードなど、資格情報を入力して Parallels Remote Application Server に接続するには、このオプションを選択します。
- スマートカード：スマートカードを使用して Parallels Remote Application Server に接続するには、このオプションを選択します。
- シングルサインオン：Parallels Client のインストール時に [シングルサインオン] モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカルシステムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者向けの注記：許可された認証タイプを RAS Console の [接続] / [確認証明] で指定する必要があります。

- 5 選択した認証タイプに応じて、ユーザー名とパスワードを入力するか、スマートカードをリーダーに挿入します。スマートカードを使用する場合、PIN を入力します（要求された場合）
- 6 [接続] をクリックします。

メインの Parallels Client ウィンドウが表示されます。ウィンドウの左ペインには、自動的に構成された接続が表示されます。右ペインには、使用できる公開済みのリソースが表示されます。



リソースをダブルクリックして開きます。ローカルアプリケーションまたはドキュメント（あるいは公開済みのリソースとして利用できる場合はリモートデスクトップ）のように、リソースがローカルコンピュータの別のウィンドウで開かれます。

Parallels Client の手動インストール

Parallels Client の手動によるダウンロードおよびインストール

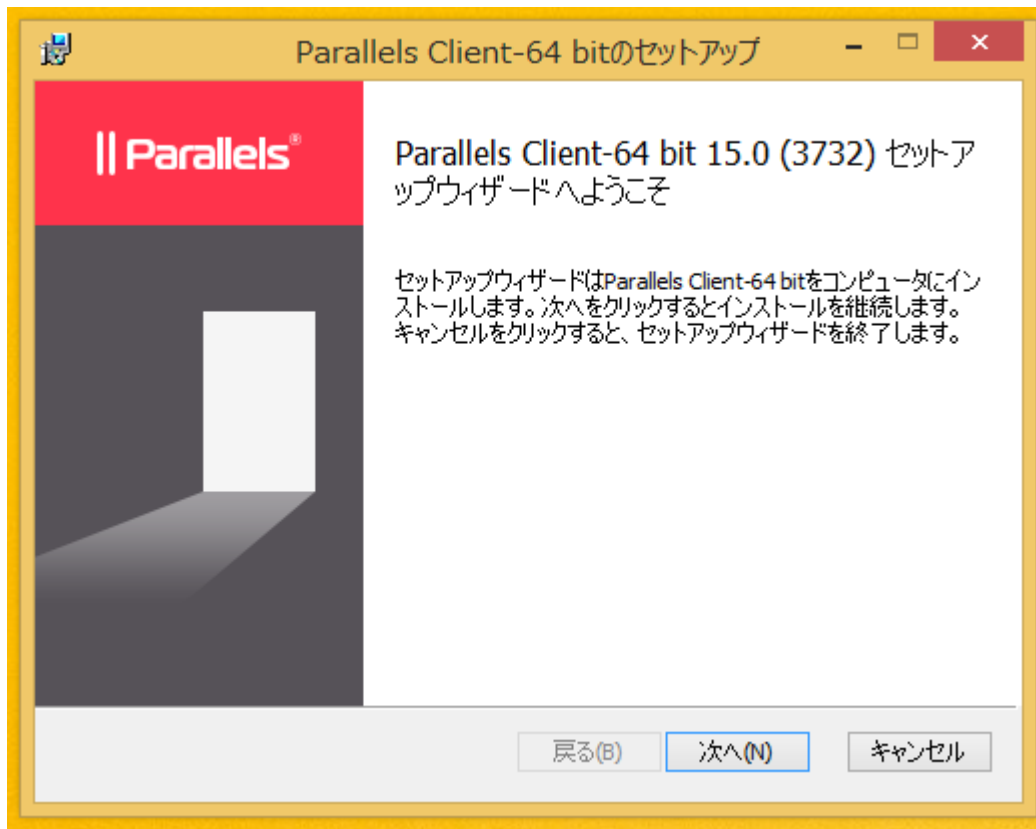
Windows 用 Parallels Client をダウンロードおよびインストールするには、前のセクションで説明した招待メールによる方法をお勧めします。インストーラーを別のコンピューター上で手動で実行するなどの理由でインストーラーをダウンロードする場合は、次の URL にアクセスしてください。

- 32 ビット版: <http://download.parallels.com/ras/v15/RASClient.msi>
- 64 ビット版: <http://download.parallels.com/ras/v15/RASClient-x64.msi>

Windows 用 Parallels Client をインストールするには、次の操作を実行します。

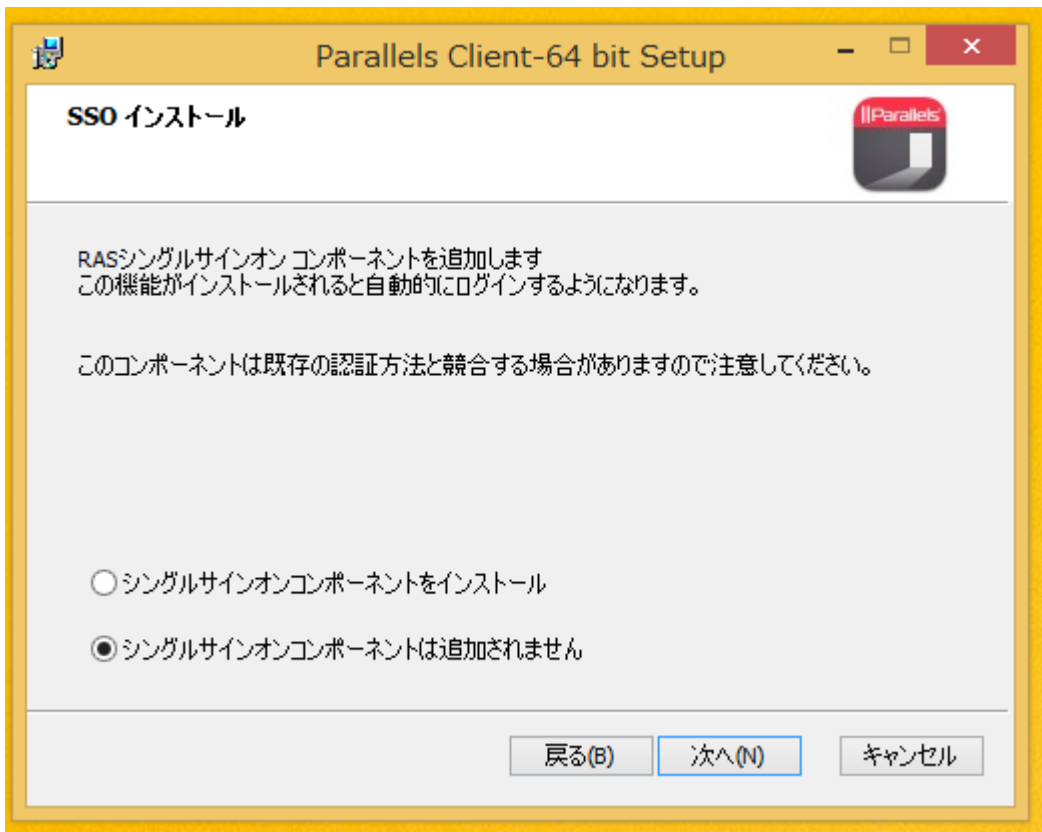
- 1** 管理権限を持つユーザーとしてコンピューターにログインしていることを確認します。
- 2** Parallels のウェブサイトからダウンロードした Parallels Client インストーラーを実行します。

- 3 インストールウィザードの [ようこそ] ページで、[次へ] をクリックします。



- 4 使用許諾契約書に同意し、[次へ] をクリックします。
- 5 Parallels Client をインストールするフォルダーを選択し、[次へ] をクリックします。

- 6 Parallels Client を Windows Server オペレーティングシステムにインストールする場合、[SSO インストール] ページはスキップされます。サポートされるその他の Windows バージョンの場合、このページが表示されます。このページを使用して、[シングルサインオン] コンポーネントをインストールするかどうかを指定します。このコンポーネントは、ユーザーの資格情報を使用して Parallels Remote Application Server に自動的に接続されます。このコンポーネントを機能させるには、インストール後にコンピューターを再起動する（またはログオフして再度ログオンする）必要があります



- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 [インストールする準備ができました] ページで [インストール] をクリックします。

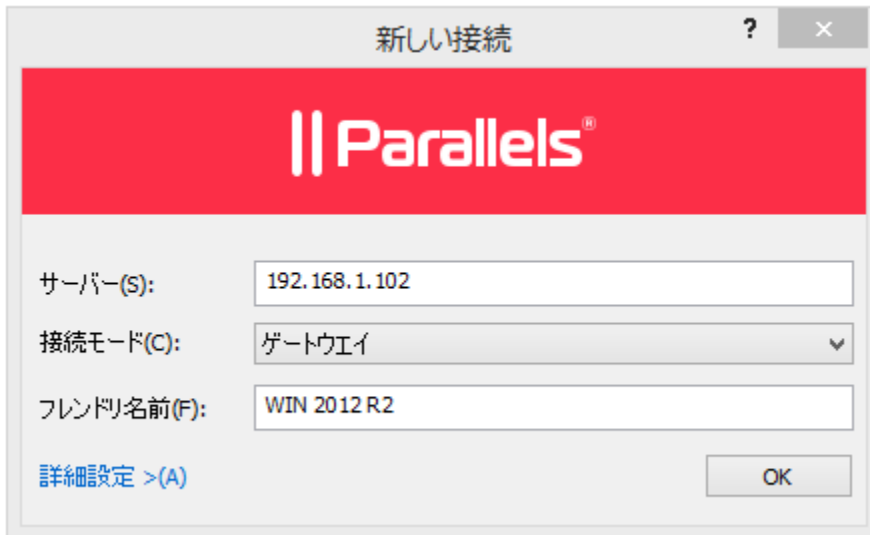
- 9 インストールが完了すると、ウィザードの最後のページが表示されます。



- 10 [完了] をクリックしてウィザードを閉じ、Windows 用 Parallels Client を開始します。

Parallels Remote Application Server への接続

Parallels Client を手動でインストールし、最初に実行するときに、新しい接続を構成するかどうかを求められます。[はい] をクリックします。これにより、[新しい接続] ダイアログが開きます。



このダイアログに指定する接続情報は、システム管理者から提供される必要があります。管理者から招待メールを受け取った場合は、この情報をメッセージの下部で確認できます。次のような情報が表示されます。

RAS 接続を手動で構成するには、次の設定を使用します。

サーバー: 192.168.1.102

ポート: 443

接続モード: ゲートウェイモード

接続プロパティを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 [サーバー] フィールドに、Parallels Remote Application Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します（これは、RAS Secure Client Gateway があるサーバーです）。
- 2 [接続モード] フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します（ユーザーはこれらを選択することはできません。ユーザーは、システム管理者から要求されたモードを使用する必要があります）。
 - ゲートウェイモード: Parallels Client は RAS Secure Client Gateway に接続し、セッション接続は最初に利用可能な接続を介してトンネリングされます。ゲートウェイを介し

でのみサーバーにアクセスできるようにする場合は、このモードをお勧めします。このモードは、高レベルのセキュリティを必要としません。

- **SSL モード**：上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
- **ダイレクトモード**：Parallels Client によって利用可能で最適なターミナルサーバーにアクセスするために最初に RAS Secure Client Gateway に接続され、次にそのターミナルサーバーに直接接続されます。Parallels Client とターミナルサーバーが同一ネットワーク上に存在する場合、これが最も適しています。
- **ダイレクト SSL モード**：上記のダイレクトモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。

管理者がゲートウェイに対して [RAS Secure Client Gateway のアドレスを配信する] オプションを有効にしている場合、[...] ボタンをクリックすると、領域内で利用可能な Parallels Remote Application Server 接続が表示されるので、それを選択することができます。接続が表示されない場合、[サーバー] 情報を上記のように手動で入力する必要があります。

- 3** [フレンドリ名前] フィールドでは、この接続のフレンドリ名前を選択して入力します。
- 4** システム管理者からポート番号を指定するよう指示があった場合は、ポート番号を指定します。
 - a** [詳細設定] リンクをクリックします。[接続プロパティ] ダイアログが開きます（以下のスクリーンショットを参照）。
 - b** [ポート] フィールドでポート番号を指定します。

- c ここでは、他のプロパティを確認および変更することもできます。その詳細についてはこのガイドの後半で説明します。

'WIN2012R2'の接続プロパティ

エクスペリエンス	ネットワーク	確認証明	詳細設定
接続	ディスプレイ	印刷中	スキャン中
			ローカル リソース

接続設定


 プライマリ接続(P): 10.124.22.1 ...

接続モード(C): ゲートウェイ ▼

ポート(O): 80

セカンダリ接続(S)...

フレンドリ名前(F): WIN2012R2

ログイン

☐ オートログイン(L)


 認証タイプ(A): 認証情報 ▼

ユーザー名(E): ras_user

パスワード(W): ●●●●●●●●

☒ 保存パスワード(V)

ドメイン(D): 2x

OK キャンセル ヘルプ

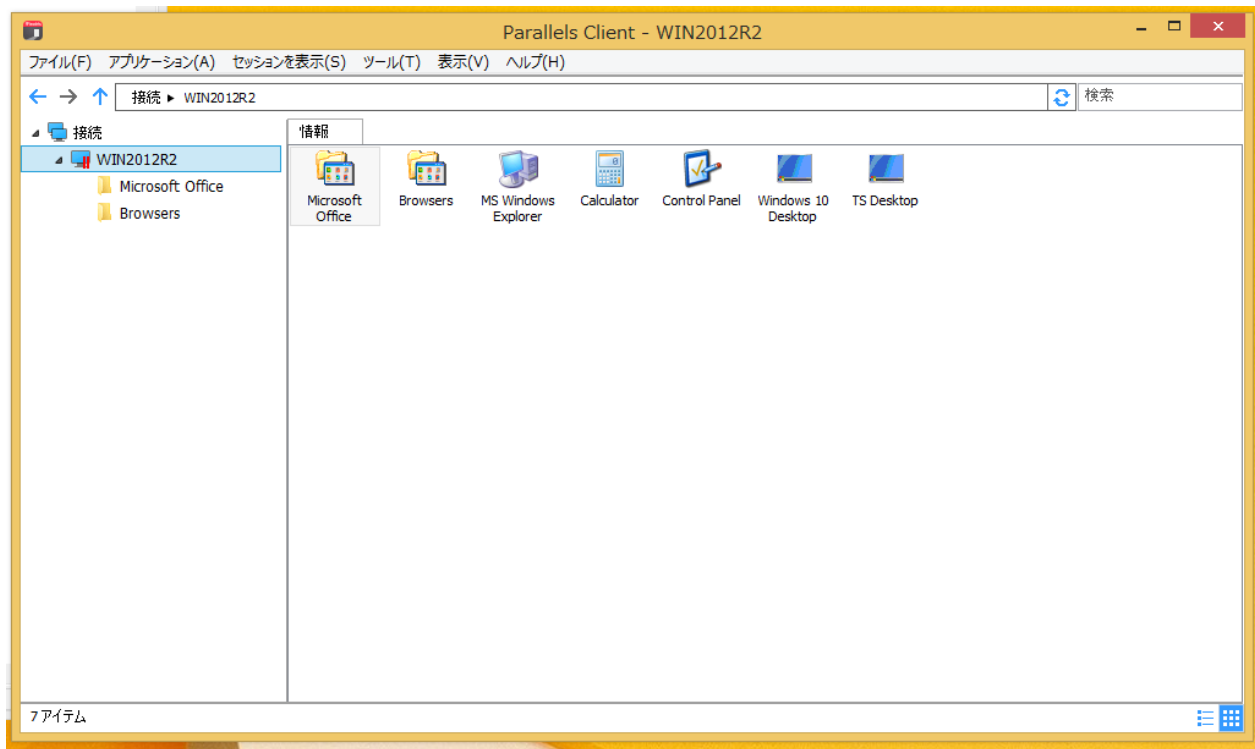
- 5 [OK] をクリックします。[ログオン] ダイアログが開きます。



- 6 [認証タイプ] ドロップダウンリストで、必要な認証方法を選択します。
- 資格情報：このオプションを選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。リモートサーバーでは、この指定した資格情報を使用して認証が行われます。
 - スマートカード：スマートカードを使用して認証を行う場合、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときに、カードリーダーにスマートカードを挿入し、PINを入力（要求された場合）します。
 - シングルサインオン：Parallels Client のインストール時に [シングルサインオン] モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカルシステムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者向けの注記：許可された認証タイプを RAS Console の [接続] / [確認証明] で指定する必要があります。

- 7 [接続] をクリックします。正常に接続された場合、メインの [Parallels Client] ウィンドウが表示されます。ウィンドウの左ペインには、接続と公開フォルダーが表示されます。右ペインには、使用できる公開リソースが表示されます。



高度な Parallels Client インストール

注意: このセクションは、IT 管理者向けです。組織の IT 管理者でない場合は、このセクションを省略できます。

Windows 用 Parallels Client インストーラーでは、MSI 形式を使用します。これにより、グループポリシーや、MSI インストーラーと連携できる他の展開ツールを使用して、Windows 用 Parallels Client をリモートで展開できます。

クライアントインストールの設定を変更するには 2 つの方法があります。

- Orca.exe を使用して元のファイルを変更します。
- コマンドラインからインストーラーを実行します: `msiexec.exe /i RASClient.msi` (64 ビット版を使用している場合は、`RASClient-x64.msi`)

サイレントインストール

サイレントインストールを実行するには、次のコマンドを実行します:

`msiexec.exe /qn /i RASClient.msi`

64 ビット版の Windows 用 Parallels Client を使用している場合は、上記のコマンドで `RASClient-x64.msi` を指定します。

一般設定

上記で指定したインストールコマンドを実行するときに、`PROPERTY=VALUE` 表記を使用して、次のプロパティを `msiexec.exe` に渡すことができます。

DEFSETTINGS: Parallels Client インストーラーが、`2xsetting.2xc` (クライアントによって使用されるすべての設定を含むファイル) をデフォルト設定として読み取るときに使用します。

DEFSETXML: XML 設定を手動で入力するときに使用します。

OVERRIDEUSERSETTINGS: クライアントの MSI 設定でユーザー設定を上書きします。

- 0 - クライアント設定は上書きされません
- 1 - クライアント設定は、クライアントの MSI セットアップの新しい設定で上書きされます

DISABLEOPTIONS: [オプション] ボタンを無効にして、クライアント設定を構成するオプションを非表示にします。このオプションは、管理権限のないユーザーに適用できます。

- 0 - オプションは有効になります
- 1 - オプションは無効になります

DISABLEOPTIONSADMIN: [オプション] ボタンを無効にして、クライアント設定を構成するオプションを非表示にします。このオプションは、管理権限のあるユーザーに適用できます。

DISABESAVEPASSWORDADMIN: 管理権限があるクライアントでも、パスワードを保存できなくなります。

- 0 - パスワードを保存するオプションは有効になります
- 1 - パスワードを保存するオプションは無効になります

DISABESAVEPASSWORD: クライアントはパスワードを保存できなくなります。このオプションは、管理権限のあるユーザーには無視されます。

- 0 - パスワードを保存するオプションは有効になります
- 1 - パスワードを保存するオプションは無効になります

TUXGINA: サイレントインストール中に SSO を除外/追加します

- 0 - SSO をインストールします
- 1 - SSO を除外します
- 2 - インストール中にメッセージを表示します (デフォルト)

TUXGINASRV: クライアントとサーバーの両方に SSO をインストールします

- 0 - クライアントのみに SSO をインストールします
- 1 - クライアントとサーバーの両方に SSO をインストールします

Active Directory の使用

2 つの方法を使用して、Active Directory からアプリケーションを展開できます。つまり、アプリケーションの公開かアプリケーションの割り当てを実行できます。

アプリケーションはユーザーに対してのみ公開できますが、割り当ての場合は、ユーザーまたはコンピューターのいずれかに割り当てることができます。アプリケーションは、どの手法を使用するかに応じて、さまざまな方法で展開されます。

Parallels では、管理者が” コンピューター” にアプリケーションを割り当てることをお勧めします。主な理由は、次回コンピューターが再起動したときに、アプリケーションが実際にインストールされることにあります。

アプリケーションをユーザーに割り当てる場合は、アプリケーション用に作成されたアイコンをユーザーが実際にクリックするまで、アプリケーションはインストールされません。

アプリケーションを特定のコンピューターに割り当てるには、Active Directory で次の操作を実行します。

- 1 グループポリシーエディターを開きます。
- 2 アプリケーションをコンピューターに割り当てるには、グループポリシーコンソールで [コンピューターの構成]/[ソフトウェアの設定]/[ソフトウェアのインストール] に移動します。[ソフトウェアのインストール] コンテナーを右クリックして、コンテキストメニューの [新規] > [パッケージ] をクリックします。該当する MSI ファイルを選択して、[開く] をクリックします。アプリケーションを公開するか割り当てるかを尋ねられます。[割り当て] を選択して、[OK] をクリックします。

サイレントインストールを実行する場合は、次の構文を使用して MSI を展開できます（64 ビット版の場合は、RASClient-x64.msi を使用）。

```
msiexec /qn /i RASClient.msi
```

次のコマンド例では、DISABLESAVEPASSWORD=0 オプション（パスワードの保存を有効にする）を使用して Parallels Client をインストールしますが、SSO インストールは省略されます。

```
msiexec /qn /i 2XClient.msi DISABLESAVEPASSWORD=0 TUXGINA=1
```

第 2 章

Windows 用 Parallels Client の使用

この章の内容

新しい接続の追加.....	22
RAS 接続の構成.....	25
RDP 接続の構成.....	40
グローバルオプションの構成.....	50
RAS 接続の使用.....	54
RDP 接続の使用.....	56
Parallels Client 設定のエクスポートおよびインポート.....	57
Parallels Client コマンドラインパラメーター.....	58

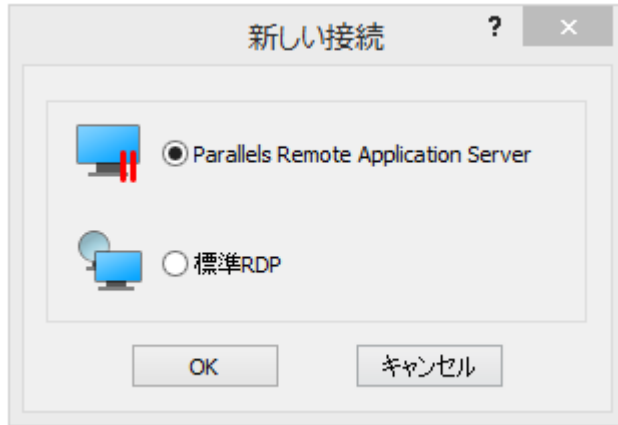
新しい接続の追加

Windows 用 Parallels Client を使用すると、複数の接続が可能になるため、さまざまなサーバーへの接続や、さまざまな接続プロパティの使用などを簡単に行うことができます。

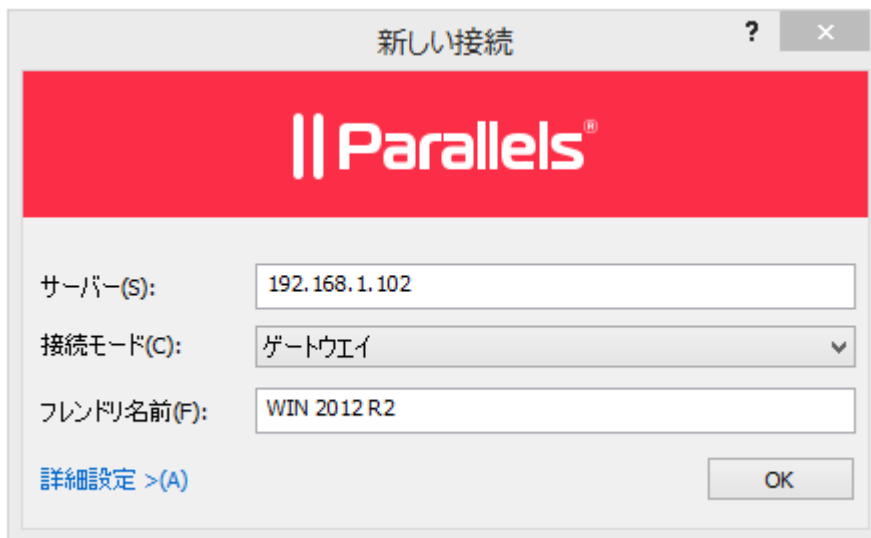
接続を追加するには、次の操作を実行します。

- 1 スタートボタン > [すべてのプログラム] > [Parallels] > [クライアント] > [クライアント] をクリックして（またはデスクトップの [Parallels Client] アイコンをダブルクリックして）、Parallels Client を開きます。

- 2 メインの [Parallels Client] ウィンドウで、[ファイル] > [新しい接続] メニュー項目をクリックします。[新しい接続] ダイアログボックスが開きます。



- 3 作成する接続タイプを指定します。
- Remote Application Server: Parallels Remote Application Server 接続を作成します。
 - 標準 RDP: 標準のリモートデスクトップ接続を作成します。このオプションでは、Parallels Remote Application Server をまったく経由せずに、ネットワーク上のコンピューターとの RDP 接続を確立して、リモートデスクトップ接続とユーザーからの接続を受け入れます。
- 4 [OK] をクリックします。[新しい接続] ダイアログボックスが開きます。



Remote Application Server 接続を作成するときは、システム管理者がユーザーに、このダイアログボックスで指定する必要がある接続情報を提供する必要があります。管理者から招

待メールを受け取った場合は、この情報をメッセージの下部で確認できます。次のような情報が表示されます。

RAS 接続を手動で構成するには、次の設定を使用します。

サーバー: 192.168.1.102

ポート: 443

接続モード: ゲートウェイモード

標準 RDP 接続を作成するときは、接続先のリモートコンピューターの IP アドレスまたはホスト名を知っている必要があります。

- 5 [サーバー] フィールドに、Parallels Remote Application Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します（これは、RAS Secure Client Gateway があるサーバーです）。標準 RDP 接続を作成するときは、リモートコンピューターの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
- 6 [接続モード] ドロップダウンリストは、Remote Application Server 接続の作成時にのみ有効になります。次のオプションの 1 つを選択します（ユーザーの場合、ここで自由に選択することはできません。システム管理者から指示されたモードを使用する必要があります）。
 - ゲートウェイモード: Parallels Client は RAS Secure Client Gateway に接続し、セッション接続は最初に利用可能な接続を介してトンネリングされます。ゲートウェイを介してのみサーバーにアクセスできるようにする場合は、このモードをお勧めします。このモードは、高レベルのセキュリティを必要としません。
 - SSL モード: 上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
 - ダイレクトモード: Parallels Client によって利用可能で最適なターミナルサーバーにアクセスするために最初に RAS Secure Client Gateway に接続され、次にそのターミナルサーバーに直接接続されます。Parallels Client とターミナルサーバーが同一ネットワーク上に存在する場合、これが最も適しています。
 - ダイレクト SSL モード: 上記のダイレクトモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。

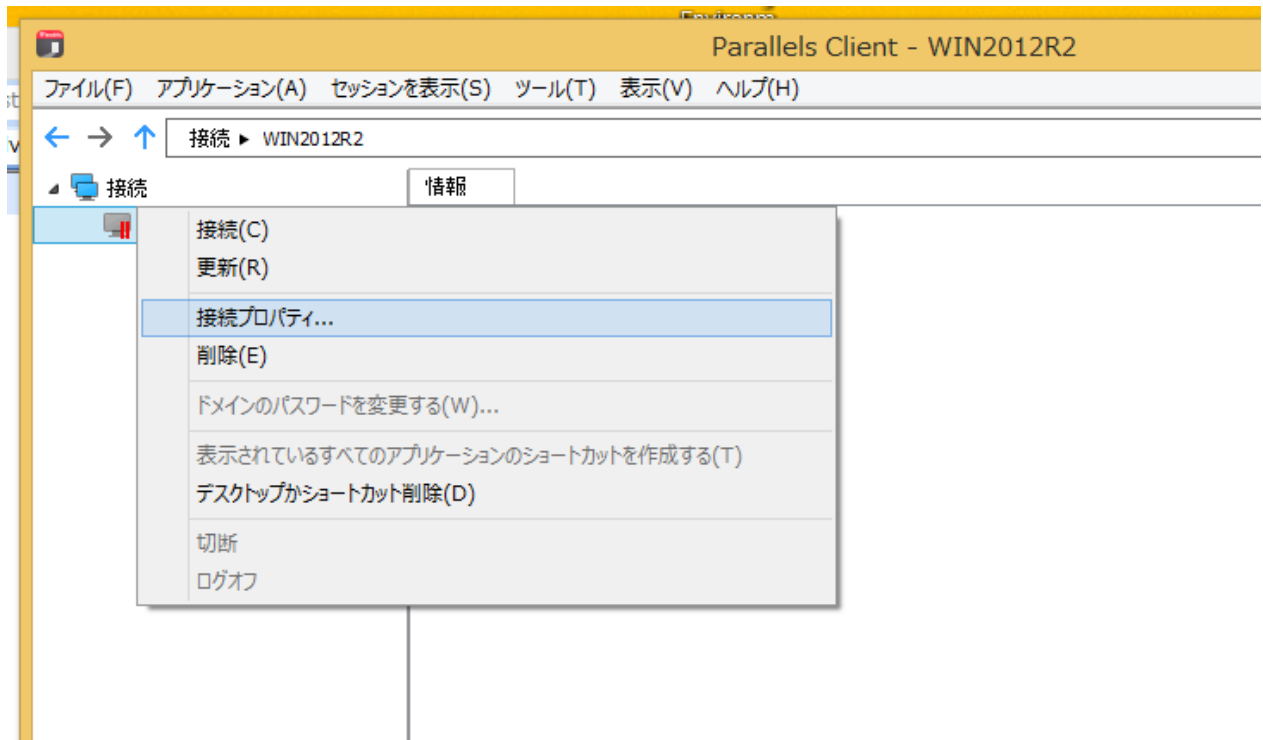
管理者がゲートウェイに対して [RAS Secure Client Gateway のアドレスを配信する] オプションを有効にしている場合、[...] ボタンをクリックすると、領域内で利用可能な Parallels Remote Application Server 接続が表示されるので、それを選択することができます。リストが空の場合は、先ほど説明したように、[サーバー] 情報を手動で入力する必要があります。

- 7 [フレンドリ名前] フィールドでは、この接続のフレンドリ名前を選択して入力します。

- 8 [詳細設定] リンクからは、追加の接続プロパティを指定できる [接続プロパティ] ダイアログボックスが開きます。詳細については、「RAS 接続の構成」(p. 25) または「RDP 接続の構成」(p. 40) を参照してください。
- 9 [OK] をクリックして、接続を作成します。

RAS 接続の構成

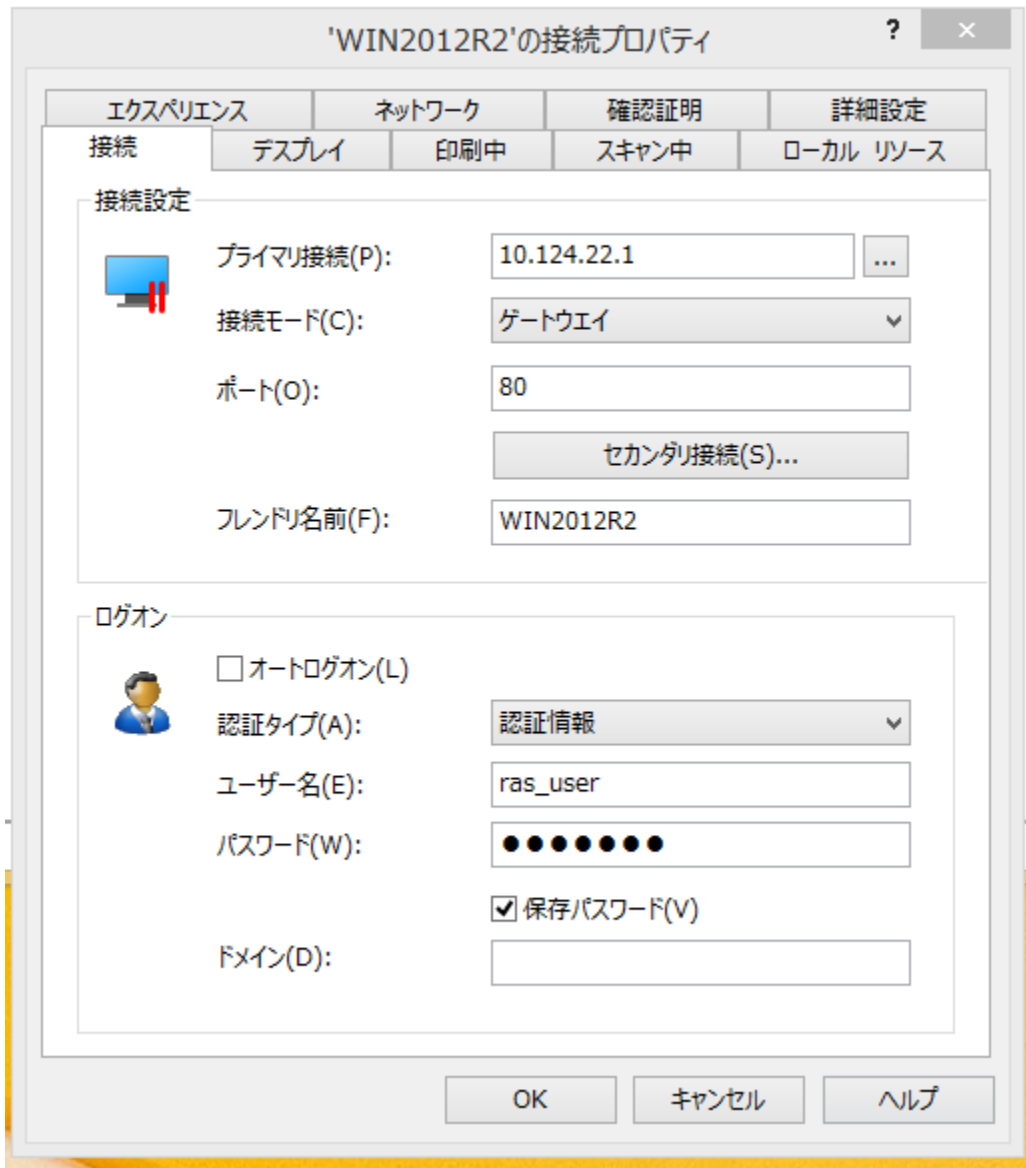
既存の Remote Application Server 接続のプロパティを表示および変更するには、メインの [Parallels Client] ウィンドウで RAS 接続を右クリックして、コンテキストメニューの [接続プロパティ] をクリックします。



[接続プロパティ] ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックス内でタブページを使用してプロパティが機能ごとにグループ化されています。次のサブセクションでは、各タブページについて詳しく説明します。

接続

[接続] タブページでは、接続プロパティとログオン情報を指定できます。



The screenshot shows the 'WIN2012R2' connection properties dialog box. The '接続' (Connection) tab is selected. The dialog is divided into two main sections: '接続設定' (Connection Settings) and 'ログオン' (Logon). In the '接続設定' section, the 'プライマリ接続(P):' (Primary Connection) is set to '10.124.22.1'. The '接続モード(C):' (Connection Mode) is set to 'ゲートウェイ' (Gateway). The 'ポート(O):' (Port) is set to '80'. There is a button for 'セカンダリ接続(S)...' (Secondary Connection...). The 'フレンドリ名前(F):' (Friendly Name) is set to 'WIN2012R2'. In the 'ログオン' section, the 'オートログオン(L)' (Auto Logon) checkbox is unchecked. The '認証タイプ(A):' (Authentication Type) is set to '認証情報' (Authentication Information). The 'ユーザー名(E):' (Username) is 'ras_user'. The 'パスワード(W):' (Password) is masked with dots. The '保存パスワード(V)' (Save Password) checkbox is checked. The 'ドメイン(D):' (Domain) field is empty. At the bottom, there are 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help) buttons.

プライマリ接続の構成

[接続] タブページでは、プライマリ接続と 1 つ以上の セカンダリ接続 を定義できます。

プライマリ接続は、指定したサーバーへの接続に Parallels Client が最初に使用する接続です。このサーバーではプライマリ RAS Secure Client Gateway が実行されている必要があります。

プライマリ接続情報を指定するには、次の手順を実行します。

- 1 [プライマリ接続] フィールドで、サーバー名または IP アドレスを指定します。[...] ボタンをクリックし、リストからサーバーを選択することができます。サーバーが表示されない場合、それは、システム管理者がサーバー側でこの機能を無効にしていることを意味します。この場合は、[プライマリ接続] フィールドにサーバーの名前または IP アドレスを入力することで、サーバーを指定します。

管理者向けの注記: [...] ボタンでサーバーを表示するには、サーバー側で [RAS Secure Client Gateway のアドレスを配信する] オプションを有効にする必要があります。

- 2 [接続モード] ドロップダウンリストで、次のいずれかのオプションを選択します（ユーザーは、選択するモードをシステム管理者に確認します）。
 - ゲートウェイモード: Parallels Client は RAS Secure Client Gateway に接続し、セッション接続は最初に利用可能な接続を介してトンネリングされます。ゲートウェイを介してのみサーバーにアクセスできるようにする場合は、このモデルをお勧めします。このモデルは、高レベルのセキュリティを必要としません。
 - SSL モード: 上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
 - ダイレクトモード: 最初に Parallels Client は RAS Secure Client Gateway に接続され、利用可能な最適なターミナルサーバーにアクセスします。その後、Parallels Client はその特定のサーバーに直接接続されます。Parallels Client とターミナルサーバーが同一ネットワーク上に存在する場合、これが最も適しています。
 - ダイレクト SSL モード: 上記のダイレクトモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
- 3 [ポート] フィールドで、ゲートウェイがどのポートで受信接続を待機するかを指定します。サーバー側でデフォルト値が変更されている場合、ここでもデフォルト値を変更する必要があります。サーバー側でデフォルト値が変更されていない場合、デフォルト値をそのままにします。
- 4 [フレンドリ名前] フィールドでは、任意の名前を選択して入力します。これにより、後で Parallels Client 内でサーバーを容易に特定できます。

セカンダリ接続の構成

接続先の Remote Application Server に複数の RAS Secure Client Gateway がある場合、セカンダリ接続を定義できます。プライマリゲートウェイの接続に失敗した場合のバックアップ接続として、セカンダリ接続を使用します。

セカンダリ接続を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [セカンダリ接続] ボタンをクリックします。
- 2 [セカンダリ接続] ダイアログで [追加] ボタンをクリックし、サーバー名または IP アドレスを指定します。このサーバーでは、セカンダリ RAS Secure Client Gateway がホストされている必要があります（プライマリゲートウェイはプライマリ接続で使用されます）。[...] ボタンをクリックし、リストからサーバーを選択することができます。サーバーが表示されない場合（または目的のサーバーがリストに含まれていない場合）、提供されているフィールドにサーバー情報を入力します。
- 3 [接続モード] を選択し、必要に応じてポート番号を変更します。[OK] をクリックします。
- 4 [セカンダリ接続] ダイアログに戻ります。複数のセカンダリ接続がある場合は、それらをリスト内で上下に移動できます。プライマリ接続を確立できない場合、Parallels Client はリスト内の順番でセカンダリ接続を使用します。
- 5 [OK] をクリックします。

ログオン情報の構成

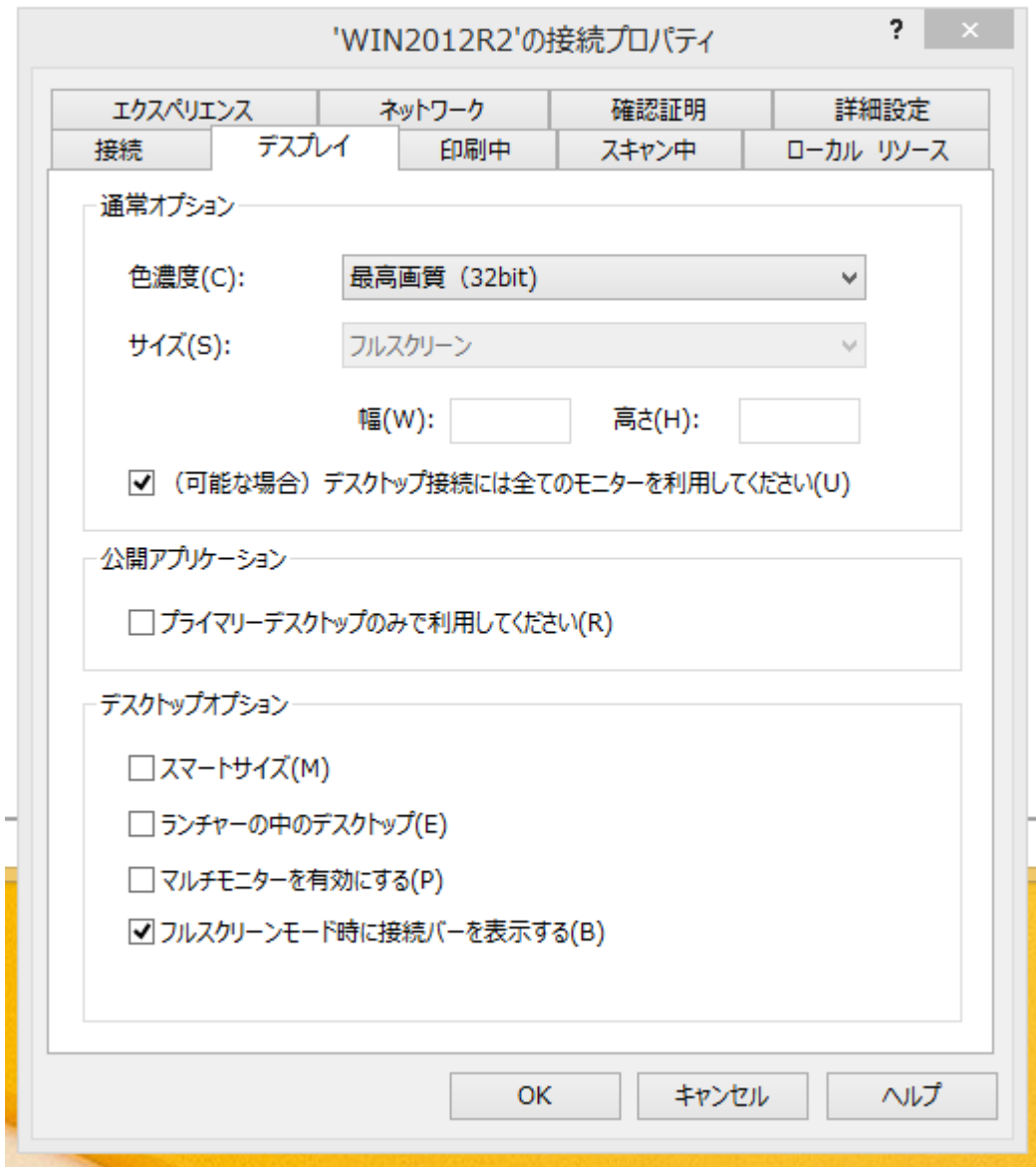
[ログオン] セクションで、次のプロパティを指定します。

- 1 [オートログオン] オプションを選択すると、Parallels Client は自動的に接続します。ユーザーがリモートサーバーに接続するたびに [ログオン] ダイアログが表示されることはありません。
- 2 [認証タイプ] ドロップダウンリストで、必要な認証方法を選択します。
 - 資格情報：このオプションを選択し、ユーザー名、パスワード、ドメイン情報を入力します。リモートサーバーでは、この指定した資格情報を使用して認証が行われます。
 - スマートカード：スマートカードを使用して認証を行う場合、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときに、カードリーダーにスマートカードを挿入し、PIN を入力（要求された場合）します。
 - シングルサインオン：Parallels Client のインストール時に [シングルサインオン] モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカルシステムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者向けの注記：許可された認証タイプを RAS Console の [接続] / [確認証明] で指定する必要があります。

表示

[ディスプレイ] タブページでは、表示オプションを構成できます。



[一般オプション] セクションで、一般的な表示プロパティを指定します。

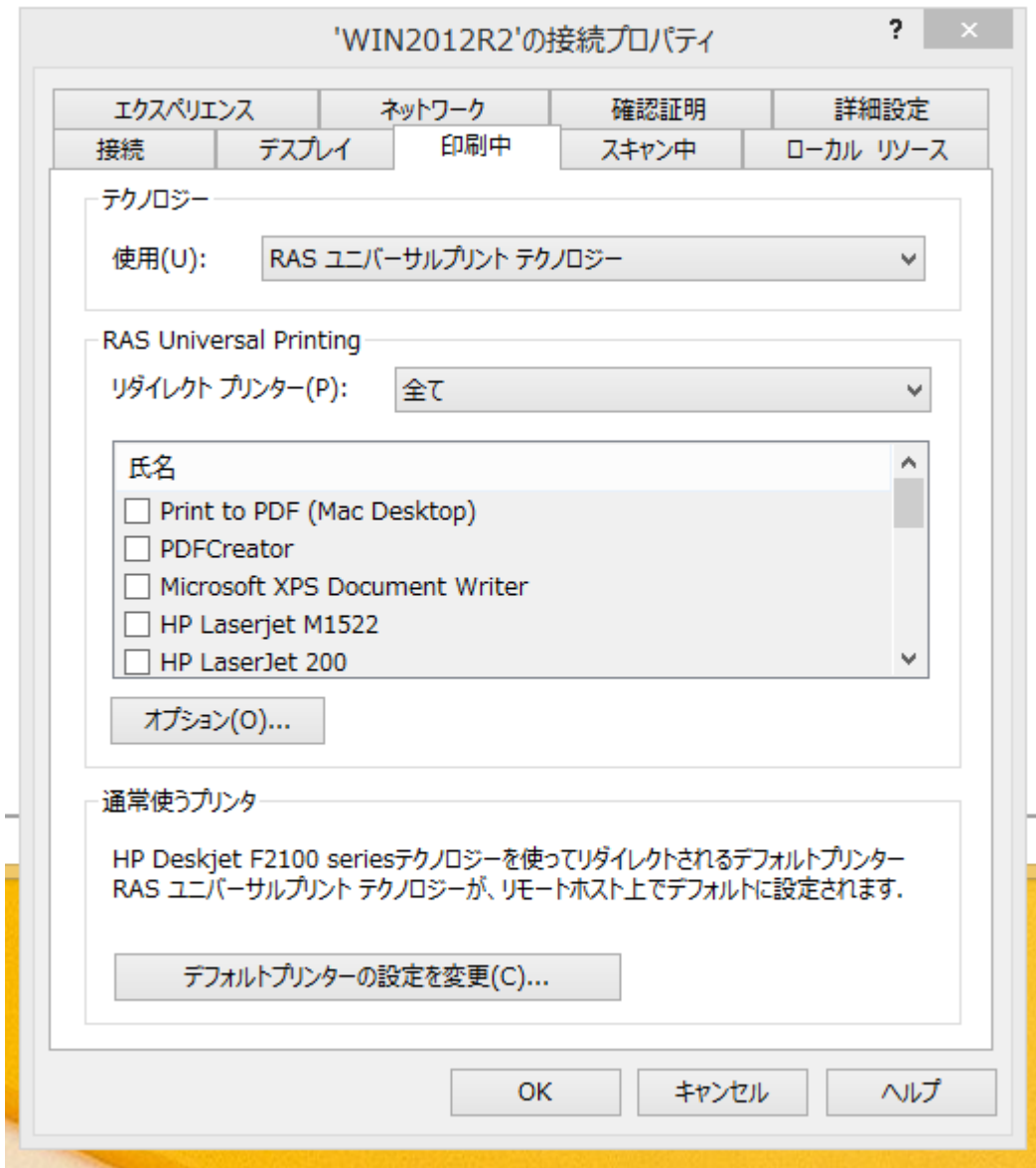
プライマリモニターでのみ公開アプリケーションを開始するには、[プライマリデスクトップのみで利用してください] オプションを選択します。システムに接続されている他のモニターは使用されません。

[デスクトップオプション] を次のように指定します。

- スマートサイズ : デスクトップのスマートサイズを使用すると、接続ウィンドウに合わせてリモートデスクトップが拡大縮小します。
- ランチャーの中のデスクトップ : Parallels Client 内の公開デスクトップにアクセスするには、このオプションを有効にします。
- マルチモニターを有効にする : 接続されたすべてのモニターにまたがって公開デスクトップを表示するには、このオプションを有効にします。
- フルスクリーンモード時に接続バーを表示する : 接続中、フルスクリーンモード時に接続バーを表示するには、このオプションを有効にします。

印刷

[印刷] タブページでは、各種の印刷オプションを構成できます。



[テクノロジー] ドロップダウンリストで、プリンターをリモートコンピューターにリダイレクトする際に使用するテクノロジーを選択します。

- なし。プリンターリダイレクトを使用しません。

- RAS ユニバーサルプリントテクノロジー。RAS ユニバーサルプリントテクノロジーを使用する場合は、このオプションを選択します。
- Microsoft ベーシックプリントリダイレクトテクノロジー。Microsoft Basic 印刷テクノロジーを使用する場合は、このオプションを選択します。
- RAS ユニバーサルプリントと Microsoft ベーシックリダイレクトテクノロジー。Parallels RAS と Microsoft のテクノロジーを両方使用する場合は、このオプションを選択します。

RAS ユニバーサルプリント

[RAS ユニバーサルプリントテクノロジー] を選択した場合は、[リダイレクトプリンター] ドロップダウンリストで、リダイレクトするプリンターを選択します。

- すべて。クライアント側のすべてのプリンターがリダイレクトされます。
- デフォルトのみ。Windows のデフォルトプリンターのみリダイレクトされます。
- 指定したもののみ。表示されるリストからリダイレクトするプリンターを選択します。このリストは、このオプションを選択した場合のみ有効になります。

追加のオプションを構成するには、[オプション] ボタンをクリックします。[RAS ユニバーサルプリントオプション] ダイアログが開きます。

このダイアログでは、データ形式を選択できます。

- Portable Document Format (PDF) 。Adobe PDF。
- Enhanced Meta File (EMF) 。ベクター形式と組み込みフォントを使用します。
- Bitmap (BMP) 。ビットマップ画像。

印刷する前にプリンターの環境設定を構成するように選択することもできます。

- 設定ウィンドウを決して表示しない。印刷する前にプリンターの環境設定ウィンドウを表示しません。
- すべてのプリンターの設定ウィンドウを表示。印刷する前にすべてのプリンターでプリンターの環境設定ウィンドウを表示します。
- 以下のプリンターのみの設定ウィンドウを表示。この設定を選択すると使用可能になるリストボックスで選択したすべてのプリンターについて、プリンターの環境設定ウィンドウを表示します。

デフォルトのプリンター設定

デフォルトのプリンター設定を構成するには、[デフォルトプリンターの設定を変更] ボタンをクリックします。

デフォルトのプリンターリストには、クライアントからリモートコンピューターにリダイレクトできるプリンターが表示されます。このリストには、利用できるプリンターで使用する印刷テクノロジーも表示されます。このテクノロジーには、[テクノロジー] セクションで選択した設定内容が反映されます。たとえば、テクノロジーを [RAS ユニバーサルプリントテクノロジー] に設定した場合、RAS ユニバーサルプリントを使用しているプリンターのみリストに表示されます。

デフォルトのプリンターを無効にするには、[<なし>] を選択します。クライアント側のデフォルトのローカルプリンターをリモートコンピューターにリダイレクトするには、[<デフォルトのローカルプリンター>] を選択します。[<カスタムプリンター>] を選択すると、リモートコンピューターにインストールされている可能性のあるカスタムプリンターを指定できます。[カスタム] テキストボックスに挿入したプリンター名に一致する最初のプリンターが、リモートコンピューターでデフォルトのプリンターとして設定されます。

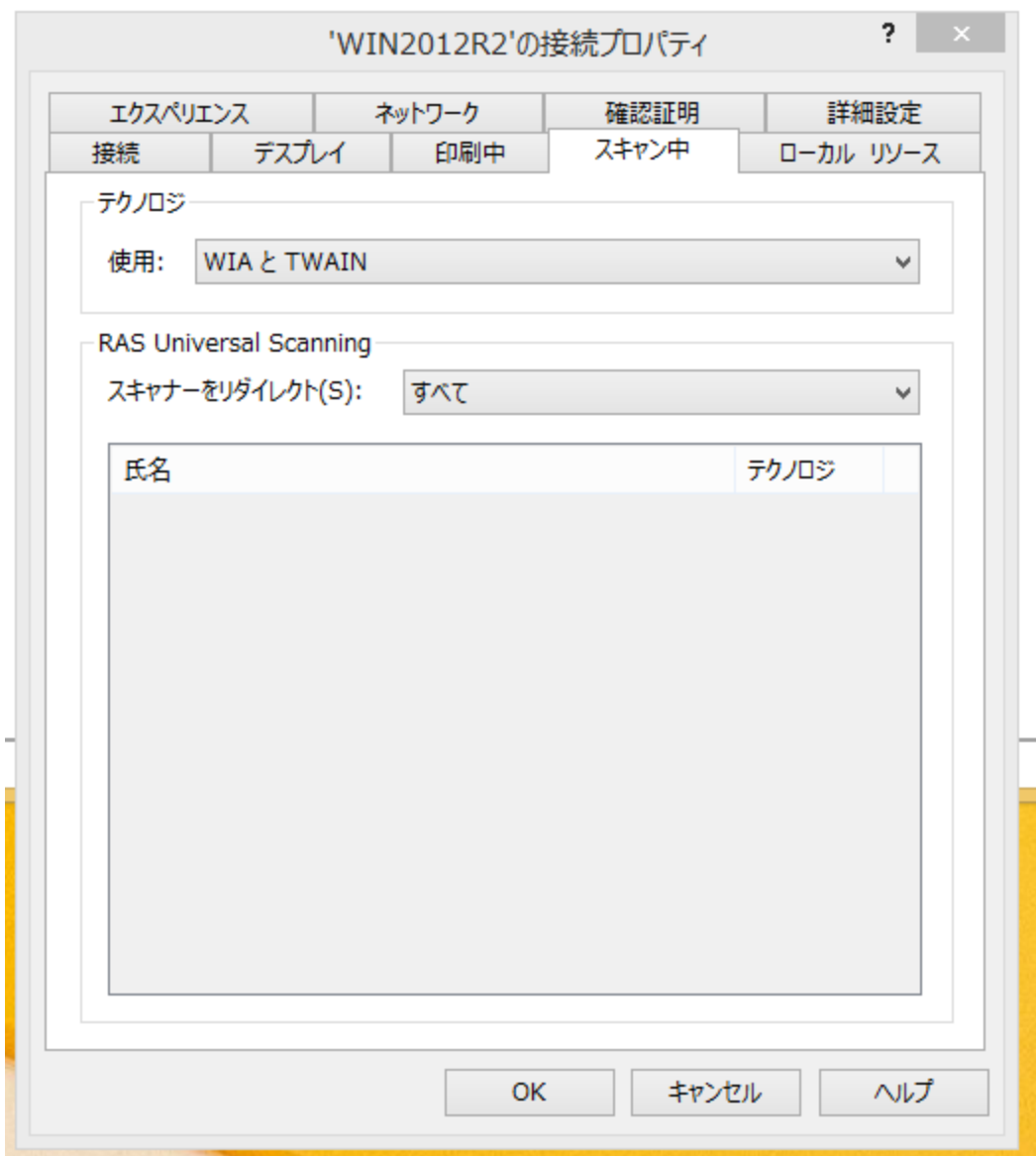
[実際のプリンター名と合致すること] を選択すると、[カスタム] テキストボックスに挿入された名前が完全一致で検索されます。リモートプリンター名は元のプリンター名と異なる可能性があるため、注意してください。サーバーの設定またはポリシーによっては、ローカルプリンターがリダイレクトされないこともあります。

プリンターが強制的にデフォルトに設定される時間を指定できます。接続が確立された後、この時間内にデフォルトのプリンターが変更された場合、そのプリンターの設定はデフォルトに戻されます。

[ローカルのデフォルトプリンターが変更される場合、リモートのデフォルトプリンターを更新します] オプションを選択すると、ローカルのデフォルトプリンターが変更された場合にリモートのデフォルトプリンターも自動的に変更されます。新しいプリンターは事前にリダイレクトされている必要があります。

スキャン

[スキャン] タブページでは、公開済みのアプリケーションでスキャナーが必要な場合に使用するスキャナーを指定できます。



[スキャン] タブページには次のオプションを設定できます。

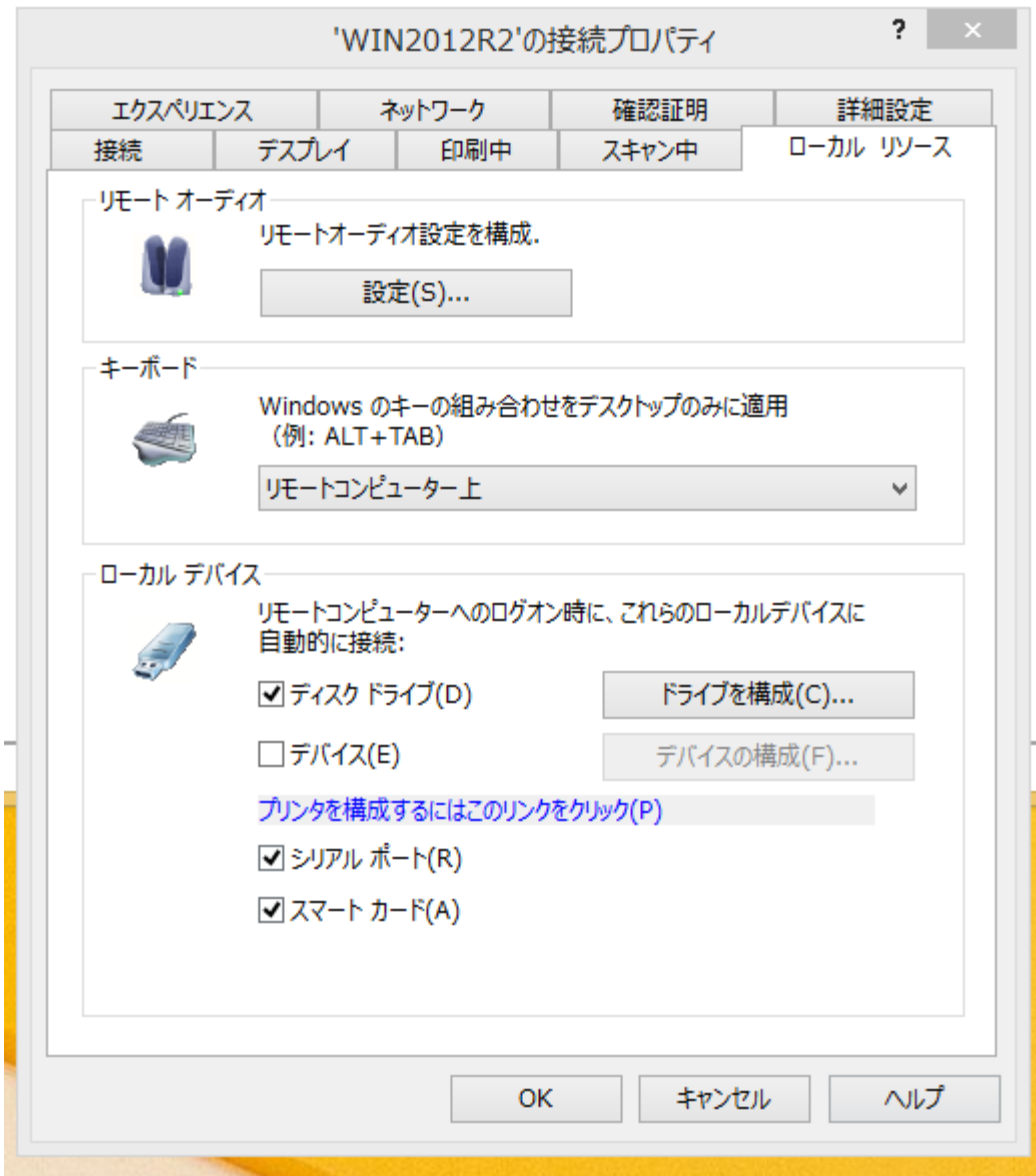
- 使用。スキャンテクノロジーを選択できます。RAS ユニバーサルスキャンでは、TWAIN または WIA リダイレクトが使用されます。これにより、アプリケーションでは、ローカルコンピ

ューターに接続されているハードウェアタイプに応じて、どちらかのテクノロジーが使用されます。[なし] を選択すると、スキャンは無効になります。

- スキャナーをリダイレクト。コンピューターに接続されているスキャナーをリダイレクト対象として選択します。[すべて]（接続されているすべてのスキャナーがリダイレクトされる）または[指定したもののみ]（表示されるリストで選択したスキャナーのみがリダイレクトされる）を選択できます。

ローカルリソース

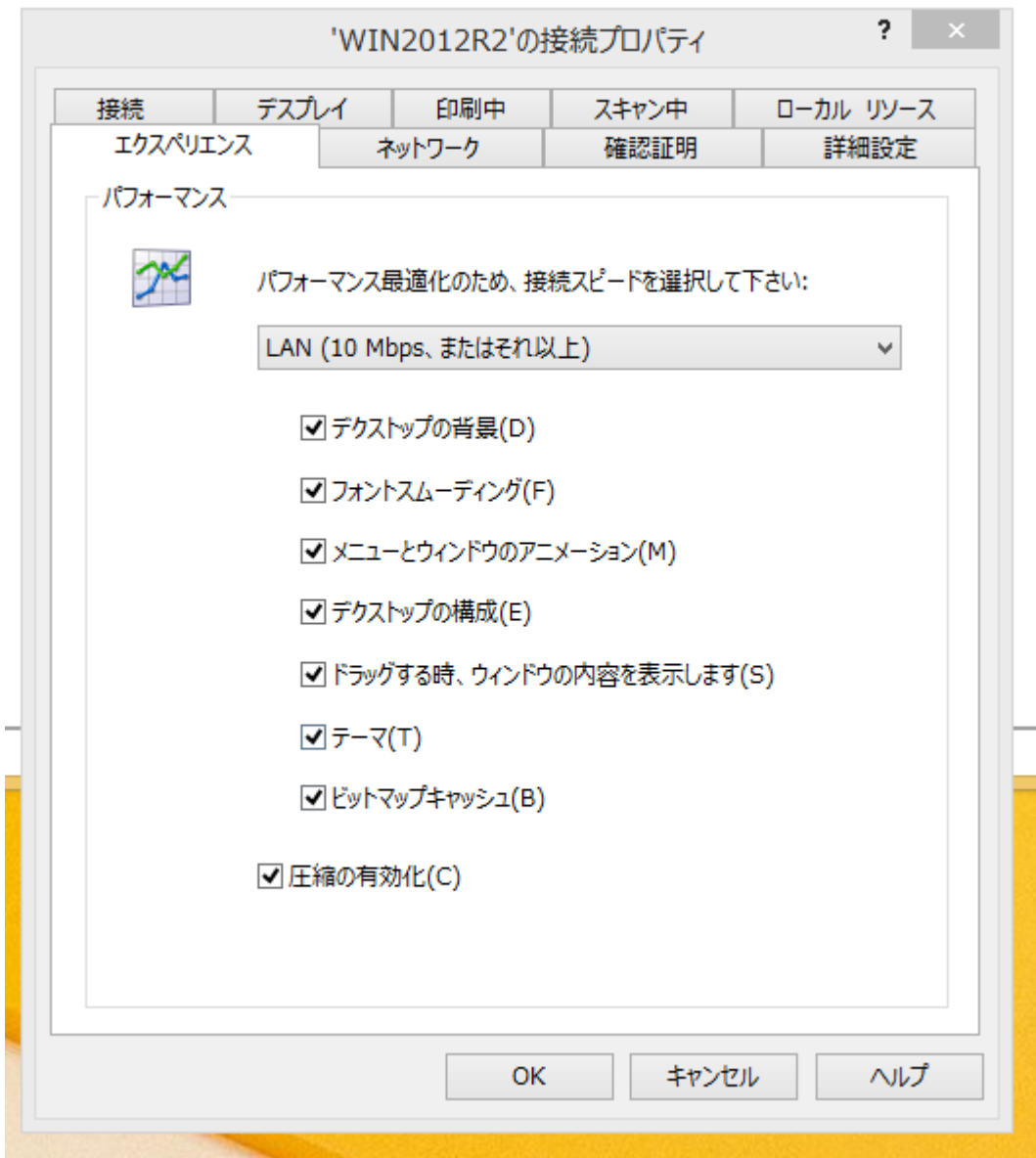
[ローカルリソース] タブページを使用して、リモートサーバーでローカルリソースをどのように処理するかを構成します。



表示されるオプションは、標準の Microsoft リモートデスクトップ接続を使用する場合に利用できるオプションと同じです。各オプションはそれ自体がわかりやすい説明になっているため、必要に応じて各オプションを設定できます。

エクスペリエンス

[エクスペリエンス] タブページでは、接続速度を微調整して、リモートサーバーへの接続のパフォーマンスを最適化できます。



通常、100 Mbps 以上のローカルネットワーク上でリモートサーバーに接続する場合、すべてのエクスペリエンスオプションをオンにすることをお勧めします。圧縮を有効にして、接続効率を向上することもお勧めします。

ネットワーク

プロキシサーバーを使用して Parallels Remote Application Server に接続する必要がある場合は、[ネットワーク] タブページを使用してプロキシサーバーを構成します。

プロキシサーバーを構成するには、[プロキシサーバーの使用] オプションを選択し、次のリストからプロトコルを選択します。

- SOCKS4。ネットワークファイアウォールのサービスを透過的に使用するには、このオプションを有効にします。
- SOCKS4A。接続できないクライアントが宛先ホストの名前を解決してホスト名を指定できるようにするには、このオプションを有効にします。
- SOCKS5。認証を使用して接続できるようにするには、このオプションを有効にします。
- HTTP 1.1。標準の HTTP 1.1 プロトコル接続を使用して接続するには、このオプションを有効にします。

プロキシホストのドメイン名または IP アドレスとポート番号を指定します。

SOCKS5 および HTTP 1.1 プロトコルの場合は、[プロキシは認証を必要] を選択して、ユーザー資格情報を入力します。

認証

サーバーの認証が失敗したときの動作を指定するには、[確認証明] タブページを使用します。

[認証に失敗した場合] ドロップダウンリストで、次のオプションのいずれかを選択します。

- 接続：ユーザーは、サーバーの認証情報を無視して、接続を続けることができます。
- 警告：ユーザーは認証情報について警告を受けますが、接続するかどうかの選択肢は残されています。
- 接続しない：ユーザーは接続できません。

詳細設定

[詳細設定] タブページを使用すると、デフォルトの動作または Parallels Client をカスタマイズできます。

次のプロパティを指定できます。

- クライアントのシステムカラーを表示する：リモートデスクトップで指定されているカラーではなく、クライアントのシステムカラーを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- クライアントシステム設定を使用：ターミナルサーバーで指定されている設定ではなく、クライアントのシステム設定を使用する場合は、このオプションを有効にします。
- サーバーで設定されたショートカット作成：公開されたアプリケーションごとに、管理者はクライアントのデスクトップおよびスタートメニューに作成できるショートカットを構成できます。ショートカットを作成するには、このオプションをオンにします。ショートカットを作成しない場合は、このオプションをオフにします。
- ファイルの拡張子を登録する：公開されたアプリケーションごとに、管理者はファイル拡張子の関連付けを作成できます。このオプションを使用して、関連付けられたファイル拡張子を登録するかどうかを指定します。
- クライアントにURLリダイレクト：'http:' リンクを開くときにローカルなウェブブラウザを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- メールをクライアントにリダイレクト：'mailto:' リンクを開くときにローカルなメールクライアントを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- アプリケーションを起動する際に、常に認証を要求する：このオプションが有効になっている場合は、アプリケーションの開始時にユーザーは資格情報の入力を求められます。
- クライアントが実行するコマンドを、サーバーが送ることを許可します：サーバーから受け取るコマンドをクライアントが実行できるようにするには、このオプションを有効にします。
- 実行する前にサーバーコマンドを確認します：このオプションが有効になっている場合は、コマンドがサーバーから実行される前にコマンドを確認するメッセージが、クライアントに表示されます。
- ネットワークレベルの認証：ネットワークレベルの認証を有効にするには、このオプションをオンにします。この場合、クライアントは、サーバーへの接続前に認証を行う必要があります。
- POS デバイスをリダイレクト：ローカルコンピューターに接続されているバーコードスキャナーや磁気読取装置などの Point of Service (POS) デバイスを、リモート接続で使用できるようにします。
- 以前の Windows 2000 ログインフォーマットを使用：このオプションが選択されている場合は、レガシー (Windows 2000 より前) のログイン形式を使用できます。

接続の詳細設定

[接続の詳細設定] ボタンをクリックして、次の設定を構成します。

- 接続タイムアウト：これは、接続が中断されるまで、クライアントが Parallels Remote Application Server への接続を試みる時間です。接続の確立が実行されている間、接続バナーが表示されます。
- 接続が確立されない場合にバナーを表示するまでの時間：接続バナーが表示されるまでの時間を秒数で指定します。
- アプリケーションに接続できない場合にデスクトップを表示するまでの時間：公開されたアプリケーションが、このフィールドに指定された時間内に起動されない場合は、サーバーのデスクトップがロードされます。これは、アプリケーションの起動中にサーバーでエラーが発生した場合に役立ちます。サーバーのデスクトップをロードすると、エラーを確認できます。
- 接続が切れた場合、再接続する：このオプションを選択して、[接続リトライ回数] を設定します。接続が中断された場合、Parallels Client は自動的に再接続を試みます。
- コンピューター名を上書きします：リモートデスクトップセッション中にコンピューターが使用する名前を指定します。このオプションが設定されている場合は、デフォルトのコンピューター名が上書きされます。[コンピューター名を上書きします] は、サーバー側の管理者が設定したフィルターで 사용됩니다。

RDP 接続の構成

既存の標準 RDP 接続のプロパティを変更するには、メインの [Parallels Client] ウィンドウで RDP 接続を右クリックして、コンテキストメニューの [接続プロパティ] をクリックします。[接続プロパティ] ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックス内でタブページを使用してプロパティが機能ごとにグループ化されています。次のサブセクションでは、各タブページについて詳しく説明します。

接続

[接続] タブページでは、接続設定とログオン情報を指定できます。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "'10.30.26.106'の接続プロパティ". It has three main tabs: "ネットワーク" (Network), "確認証明" (Authentication), and "詳細設定" (Advanced). The "ネットワーク" tab is selected and contains two sub-sections: "接続" (Connection) and "ログオン" (Login).
In the "接続" section, there are fields for:
- プライマリ接続(P): 10.30.26.106
- 接続モード(C): A dropdown menu.
- ポート(O): 3389
- セカンダリ接続(S)...: A button.
- フレンドリ名前(F): WIN 2012 R2
In the "ログオン" section, there are fields for:
- オートログオン(L): An unchecked checkbox.
- 認証タイプ(A): 認証情報 (dropdown)
- ユーザー名(E):
- パスワード(W):
- 保存パスワード(V): A checked checkbox.
- ドメイン(D):
At the bottom are buttons for OK, キャンセル, and ヘルプ.

[接続設定] セクションで、次のプロパティを指定します。

- 3 [プライマリ接続] フィールドで、リモートコンピューターのホスト名または IP アドレスを指定します。

- 4 [ポート] フィールドには、デフォルトで TCP ポート 3389 が含まれます。これは RDP 接続の標準ポートです。リモートコンピューターでポート番号が変更されている場合、これを変更できます。
- 5 [フレンドリ名前] フィールドでは、任意の名前を選択して入力します。これにより、後で Parallels Client 内でサーバーを容易に特定できます。

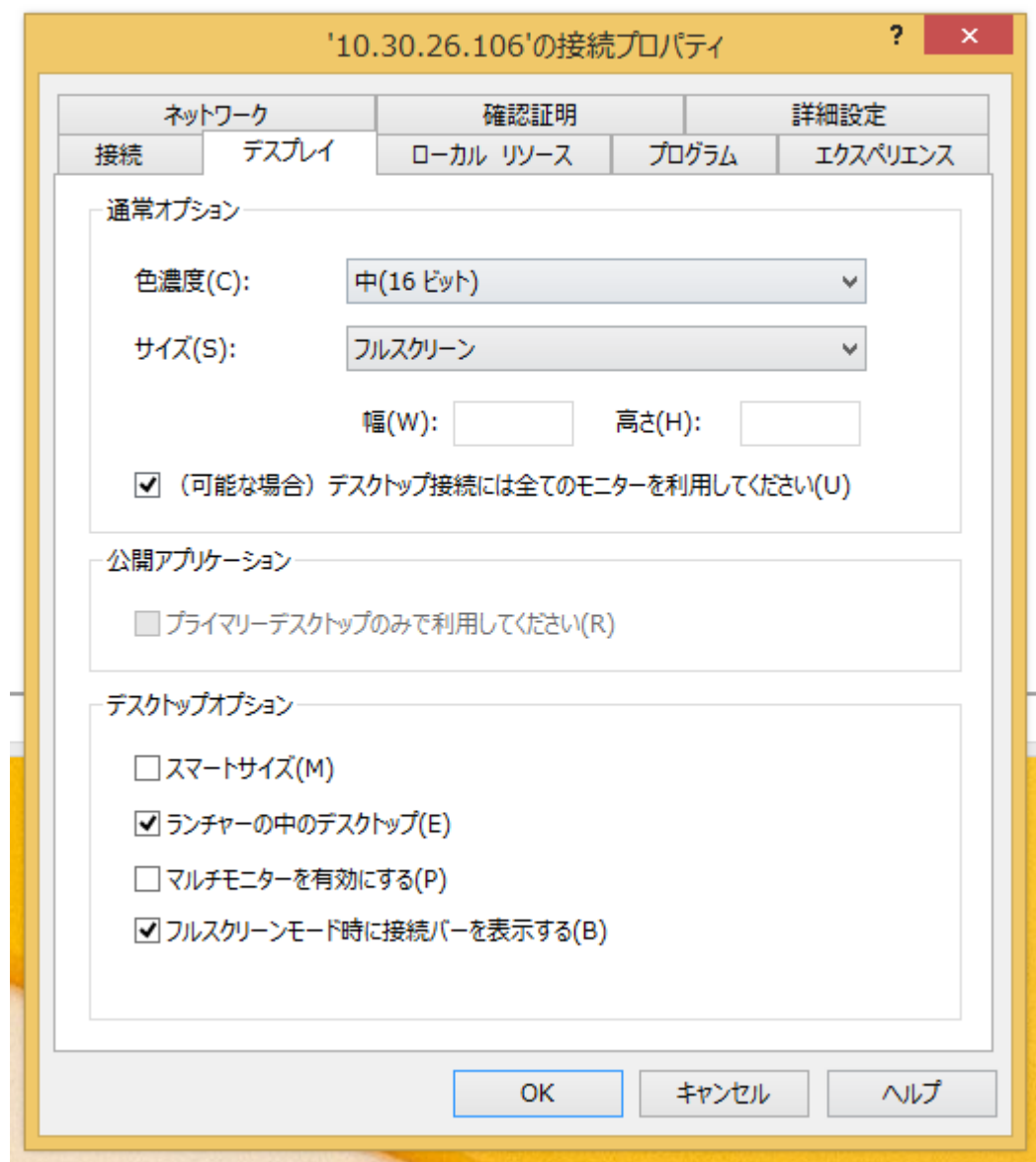
[ログオン] セクションで、次のプロパティを指定します。

- 1 [オートログオン] オプションを選択すると、Parallels Client は自動的に接続します。ユーザーがリモートサーバーに接続するたびに [ログオン] ダイアログが表示されることはありません。
- 2 [認証タイプ] ドロップダウンリストで、必要な認証方法を選択します。
 - 資格情報：このオプションを選択し、ユーザー名、パスワード、ドメイン情報を入力します。リモートサーバーでは、この指定した資格情報を使用して認証が行われます。
 - スマートカード：スマートカードを使用して認証を行う場合、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときに、カードリーダーにスマートカードを挿入し、PIN を入力（要求された場合）します。
 - シングルサインオン：Parallels Client のインストール時に [シングルサインオン] モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカルシステムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者向けの注記：許可された認証タイプを RAS Console の [接続] / [確認証明] で指定する必要があります。

表示

[ディスプレイ] タブページでは、表示オプションを構成できます。



[一般オプション] セクションで、色濃度、画面サイズなど、一般的な表示プロパティを指定します。カスタムの画面サイズを指定する場合、ドロップダウンリストで [カスタム] を選択し、[幅] および [高さ] フィールドを使用してサイズを指定します。

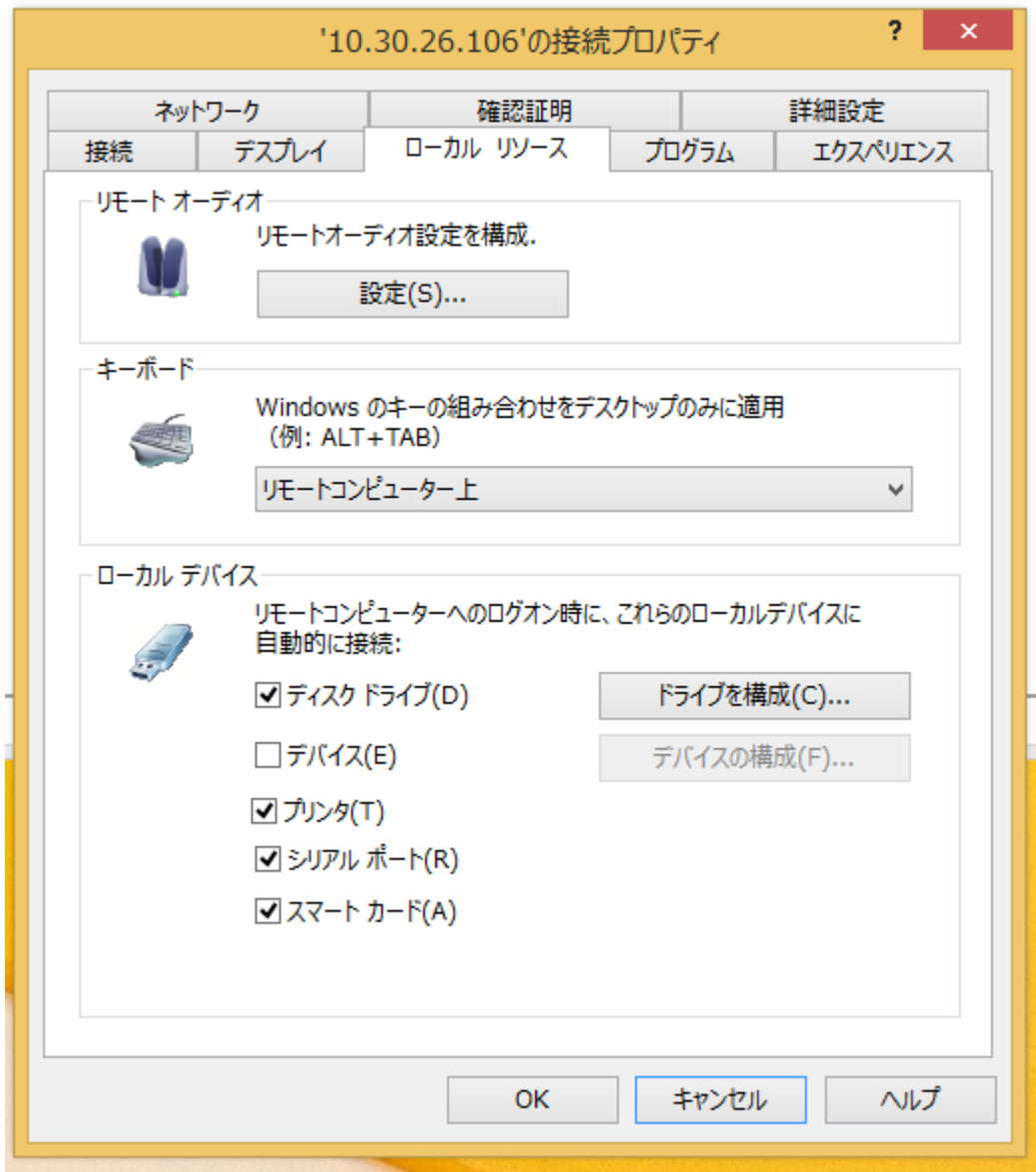
コンピューターに複数のモニターを接続している場合、[デスクトップ接続には全てのモニターを利用してください] オプションを選択すると、すべてのモニターを使用してリモートデスクトップが表示されます。

[デスクトップオプション] を次のように指定します。

- スマートサイズ : デスクトップのスマートサイズを使用すると、接続ウィンドウに合わせて RDP デスクトップが拡大縮小します。
- ランチャーの中のデスクトップ : Parallels Client 内の公開デスクトップにアクセスするには、このオプションを有効にします。
- マルチモニターを有効にする : 接続されたすべてのモニターにまたがって公開デスクトップを表示するには、このオプションを有効にします（複数のモニターがある場合）。
- フルスクリーンモード時に接続バーを表示する : 接続中、フルスクリーンモード時に接続バーを表示するには、このオプションを有効にします。

ローカルリソース

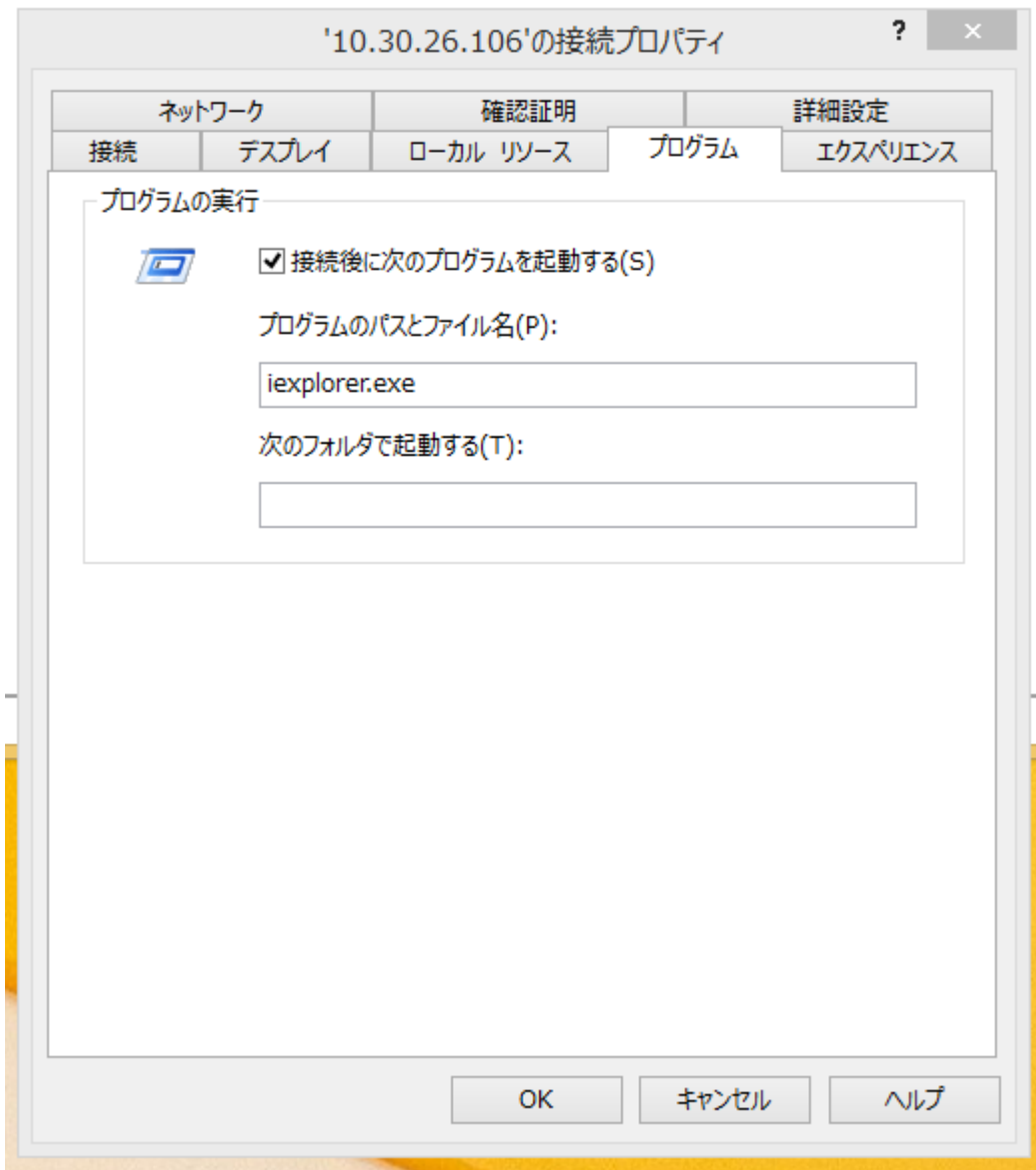
[ローカルリソース] タブページを使用して、リモートデスクトップでローカルリソースをどのように処理するかを構成します。



表示されるオプションは、標準の Microsoft リモートデスクトップ接続を使用する場合に利用できるオプションと同じです。各オプションはそれ自体がわかりやすい説明になっているため、必要に応じて各オプションを設定できます。

プログラム

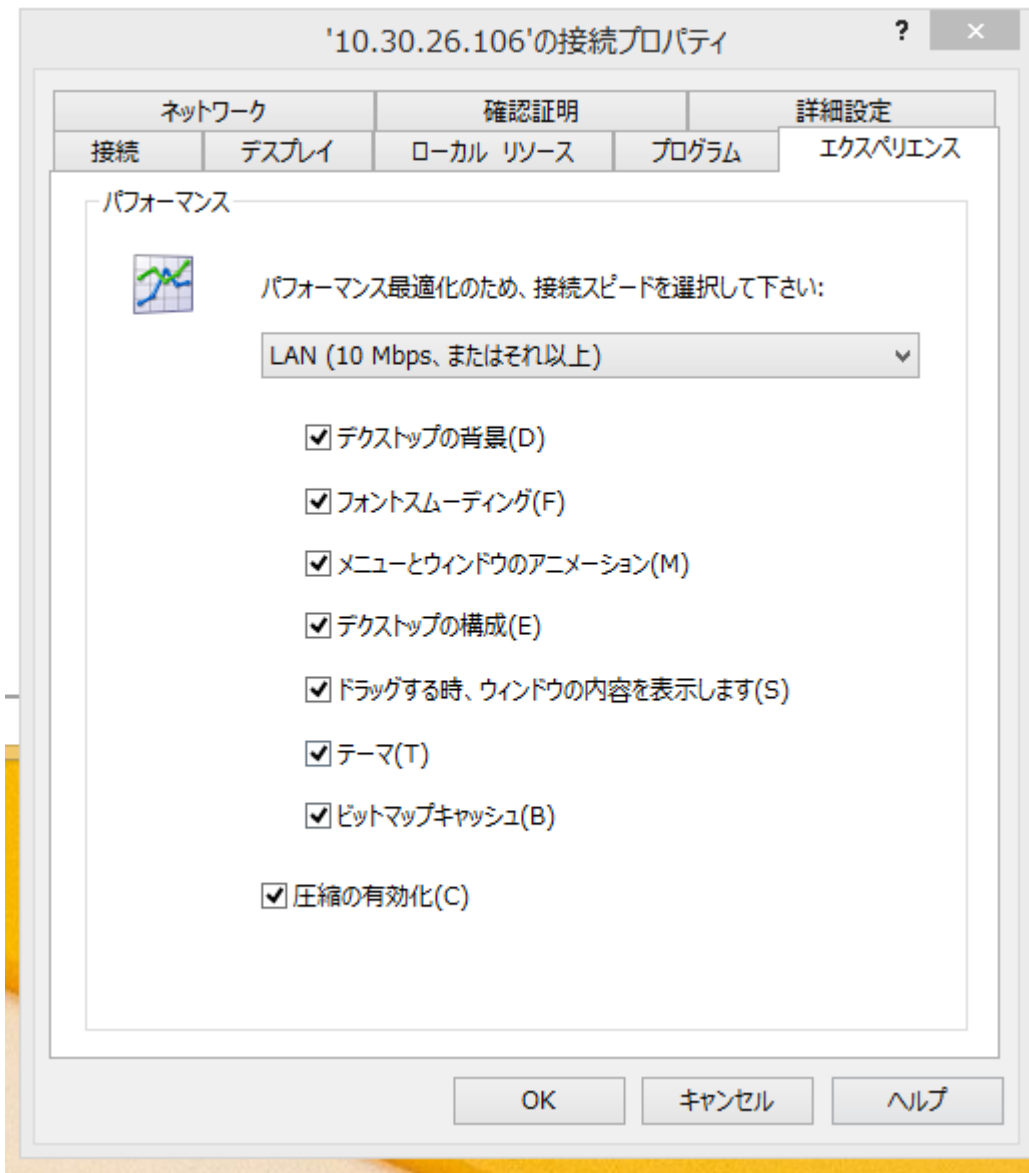
[プログラム] タブページでは、リモートコンピューターとの接続が確立されたとき、リモートコンピューターで自動的に起動されるプログラムを指定できます。



[接続後に次のプログラムを起動する] オプションを選択してから、[プログラムのパスとファイル名] オプションおよび [次のフォルダで起動する] オプションを指定します。

エクスペリエンス

[エクスペリエンス] タブページでは、接続速度を微調整して、リモートコンピューターへの接続のパフォーマンスを最適化できます。



通常、100 Mbps 以上のローカルネットワーク上でリモートコンピューターに接続する場合、すべてのエクスペリエンスオプションをオンにすることをお勧めします。圧縮を有効にして、接続効率を向上することもお勧めします。

ネットワーク

プロキシサーバーを使用してリモートコンピューターに接続する必要がある場合は、[ネットワーク] タブページを使用してプロキシサーバーを構成します。

プロキシサーバーを構成するには、[プロキシサーバーの使用] オプションを選択し、次のリストからプロトコルを選択します。

- SOCKS4。ネットワークファイアウォールのサービスを透過的に使用するには、このオプションを有効にします。
- SOCKS4A。接続できないクライアントが宛先ホストの名前を解決してホスト名を指定できるようにするには、このオプションを有効にします。
- SOCKS5。認証を使用して接続できるようにするには、このオプションを有効にします。
- HTTP 1.1。標準の HTTP 1.1 プロトコル接続を使用して接続するには、このオプションを有効にします。

プロキシホストのドメイン名または IP アドレスとポート番号を指定します。

SOCKS5 および HTTP 1.1 プロトコルの場合は、[プロキシは認証を必要] を選択して、ユーザー資格情報を入力します。

認証

サーバーの認証が失敗したときの動作を指定するには、[確認証明] タブページを使用します。

[認証に失敗した場合] ドロップダウンリストで、次のオプションのいずれかを選択します。

- 接続 : ユーザーは、サーバーの認証情報を無視して、接続を続けることができます。
- 警告 : ユーザーは認証情報について警告を受けますが、接続するかどうかの選択肢は残されています。
- 接続しない : ユーザーは接続できません。

詳細設定

[詳細設定] タブページを使用すると、デフォルトの動作または Parallels Client をカスタマイズできます。

次のプロパティを指定できます。

- コンソールに接続 : このオプションは、リモートデスクトップセッションホストサーバーの管理に使用されます。これは、標準のリモートデスクトップ接続を /admin オプションを指定してコマンドラインから開始したときのように動作します。

- ネットワークレベルの認証：ネットワークレベルの認証を有効にするには、このオプションを選択します。この場合、クライアントは、サーバーへの接続前に認証を行う必要があります。
- POS デバイスをリダイレクト：ローカルコンピューターに接続されているバーコードスキャナーや磁気読取装置などの Point of Service (POS) デバイスを、リモート接続で使用できるようにします。
- 以前の Windows 2000 ログインフォーマットを使用：このオプションが選択されている場合は、レガシー (Windows 2000 より前) のログイン形式を使用できます。

接続の詳細設定

[接続の詳細設定] ボタンをクリックして、[接続の詳細設定] ダイアログボックスを開きます。

[接続] セクションでは、次のプロパティを指定します。

- 接続タイムアウト：接続が中断されるまで、Parallels Client がリモートコンピューターへの接続を試みる時間です。接続の確立が実行されている間、接続バナーが表示されます。
- 接続が確立されない場合にバナーを表示するまでの時間：接続バナーが表示されるまでの時間を秒数で指定します。

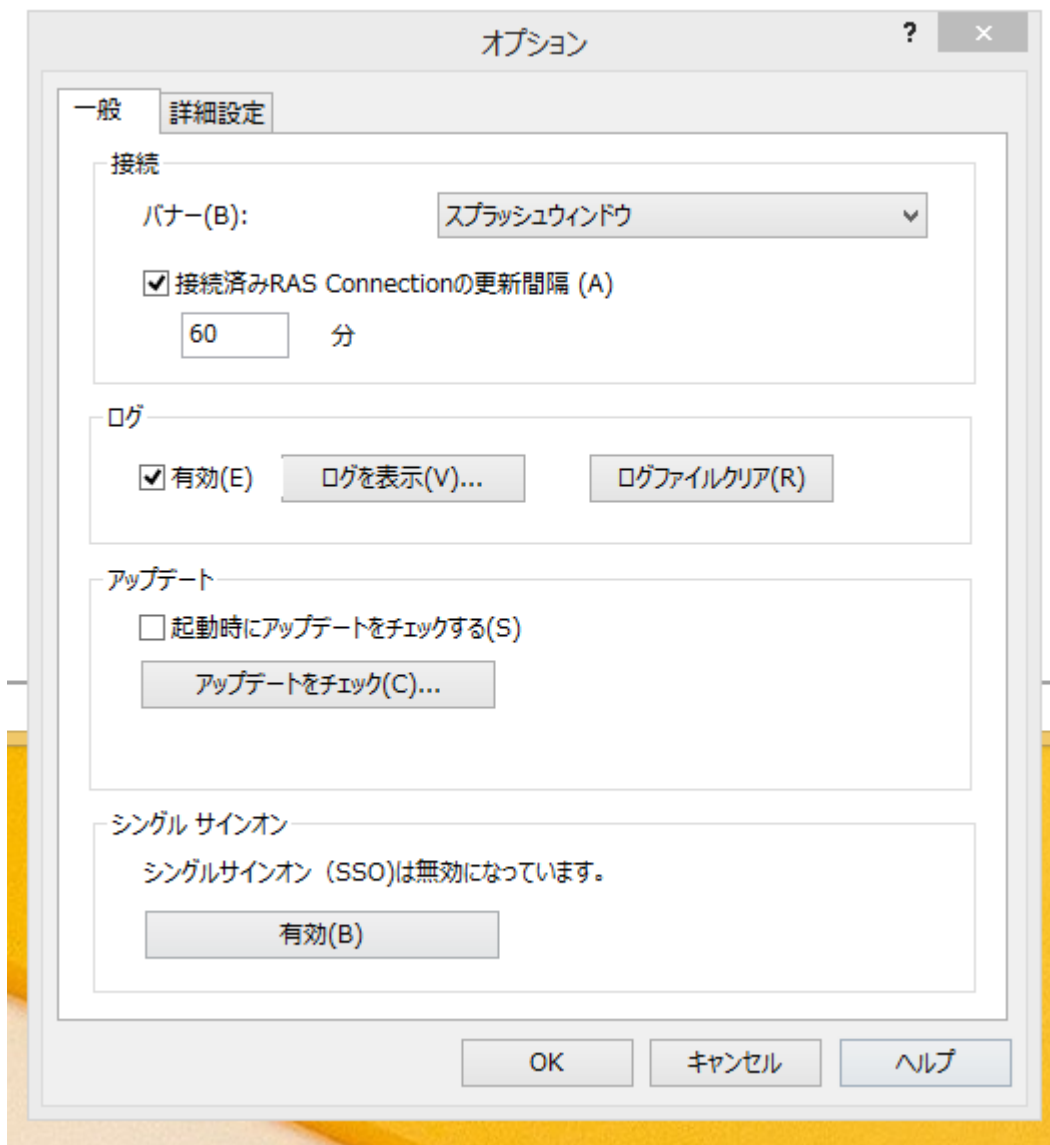
[再接続] セクションでは、次のプロパティを指定します。

- 接続が切れた場合、再接続する：このオプションを選択して、[接続リトライ回数] を設定します。接続が中断された場合、Parallels Client は自動的に再接続を試みます。
- 接続が確立されない場合にバナーを表示するまでの時間：接続バナーが表示されるまでの時間を秒数で指定します。

コンピューター名を上書きします：リモートデスクトップセッション中にコンピューターが使用する名前を指定します。このオプションが設定されている場合は、デフォルトのコンピューター名が上書きされます。[コンピューター名を上書きします] は、サーバー側の管理者が設定したフィルターで使用されます。

グローバルオプションの構成

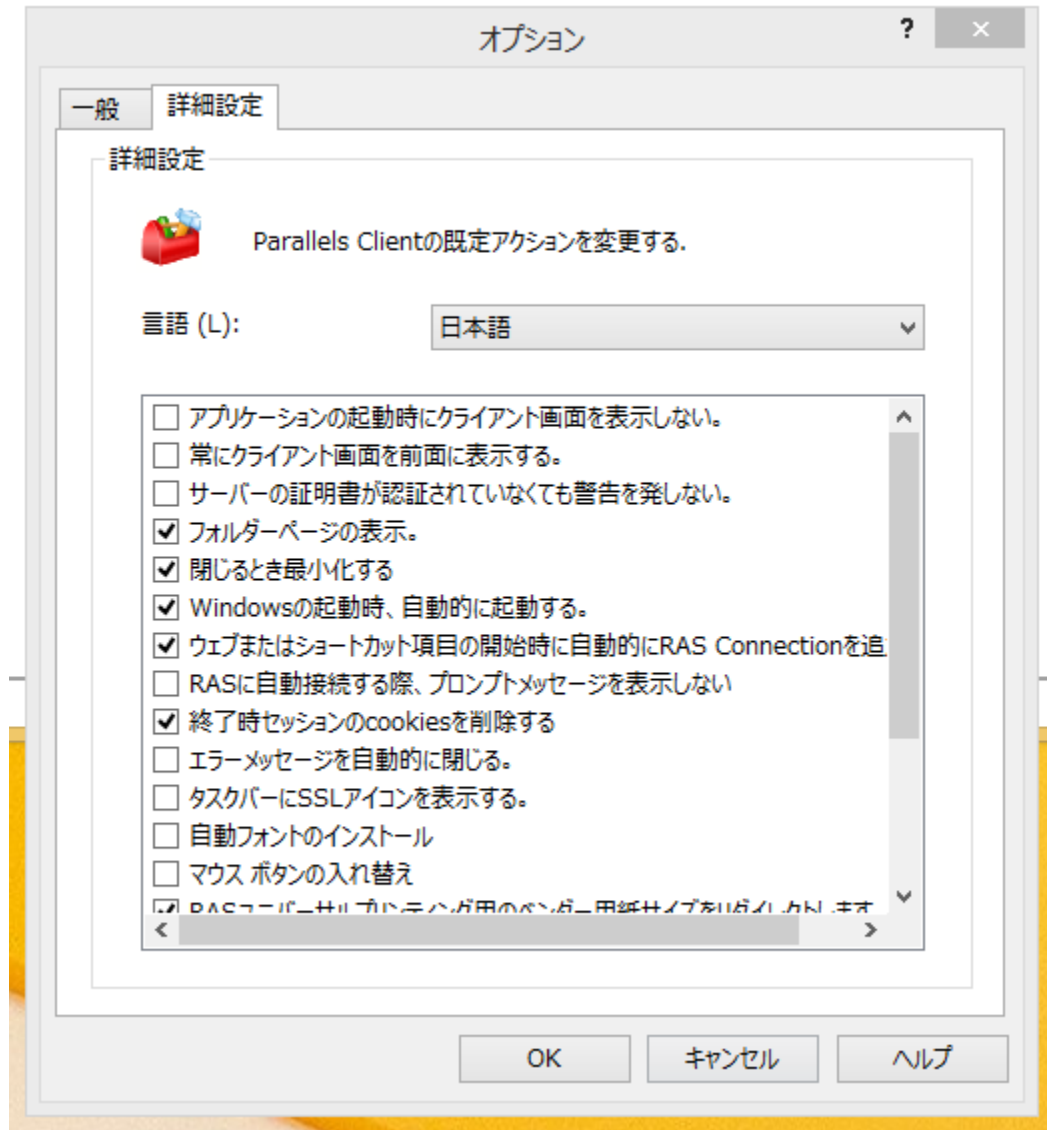
[ツール] > [オプション] メニュー項目をクリックして、Parallels Client のグローバルオプションを構成できます。これにより、[オプション] ダイアログボックスが開きます。



[一般] タブページで、次のオプションを指定します。

- 接続バナー:接続バナーは、Parallels Client がサーバーまたはデスクトップに接続しているときに表示されます。[スプラッシュウィンドウ] または [トーストウィンドウ] アイコンを選択するか、接続バナーの非表示を選択できます。
- 接続済みRAS Connectionの更新間隔:接続ごとに自動更新期間を指定します。
- ログ:ログの有効化または無効化、およびログファイルの表示を行うことができます。
- 起動時にアップデートをチェックする:このオプションは、管理権限がある場合に限り利用できます。このオプションが選択されている場合、Parallels Client は起動時に利用可能な Parallels Client のアップデートを確認します。ボタンをクリックして、アップデートを確認することもできます。
- シングルサインオン:ファームに接続するときにシステムの資格情報を使用する場合は、[シングルサインオン] が有効になっている必要があります。

[詳細設定] タブページで、詳細オプションを構成できます。



次の詳細オプションを利用できます。

- アプリケーションの起動時にクライアント画面を表示しない：このオプションが有効な場合、アプリケーションが起動されたら、ランチャーはシステムトレイ内で最小化されます。
- 常に手前に表示：この機能が有効な場合、他のアプリケーションがランチャーを隠すことはありません。

- サーバーの証明書が認証されていなくても警告を発しない：SSL 経由で接続するとき、認証情報が検証されなければ、警告メッセージが表示されます。このオプションを有効にすると、この警告メッセージを無効にすることができます。
- フォルダーページの表示：このオプションを有効にすると、サーバーで構成されたアプリケーショングループの階層とともに、利用可能なフォルダーが表示されます。
- 閉じるとき最小化する：[閉じる] ボタンをクリックするかエスケープキーを押したときに Parallels Client をシステムトレイに配置するには、この機能を有効にします。
- Windowsの起動時、自動的に起動する：このオプションにより、クライアントのスタートメニューフォルダーにショートカットが作成され、Windows 起動時に Parallels Client が自動的に開始されます。
- ウェブまたはショートカット項目の開始時に RAS 接続を自動的に追加する：このオプションでは、まだリストに表示されていない接続に含まれる項目を開始すると、接続設定が Parallels Client に追加されます。
- RAS に自動接続する際、プロンプトメッセージを表示しない：接続の自動追加時にプロンプトメッセージを無効にするには、このオプションを有効にします。
- 終了時セッションの cookies を削除する：ユーザーがログオンするとき、Parallels Remote Application Server のログオンクッキーはクライアント側に保持されます。これによりユーザーは、再認証をしなくても、Remote Application Server に再接続できます。ユーザーが Parallels Client を閉じるときにクッキーを削除するには、このオプションをオンにします。
- エラーメッセージを自動的に閉じる：エラーが原因でセッションが切断されると、エラーは 15 秒後に自動的に削除されます。
- タスクバーに SSL アイコンを表示する：SSL を使用してセッションが接続されている場合、アイコンがタスクバートレイに追加されます。アイコンをダブルクリックすると、認証情報が表示されます。
- 自動フォントのインストール（管理者のみ）：サーバーに自動フォントがインストールされている場合は、セッションの接続時に自動フォントが利用できるようになります。
- マウスボタンの入れ替え：この設定を有効にすると、リモートコンピューターでマウスボタンが切り替えられます。
- RAS ユニバーサルプリンティング用のベンダー用紙サイズをリダイレクトします：この設定を有効にすると、標準オプションに含まれていない標準以外の用紙サイズがクライアントにリダイレクトされます。サイズはベンダーによって異なります。
- RAW プリント対応：この設定を有効にすると、RAW 形式でデータを送信するアプリケーションでプリントできます。
- 配布不能フォントデータをイメージへ変換：RAS ユニバーサルプリント中に、ドキュメントに配信不能なフォントが含まれていると、各ページが画像に変換されます。

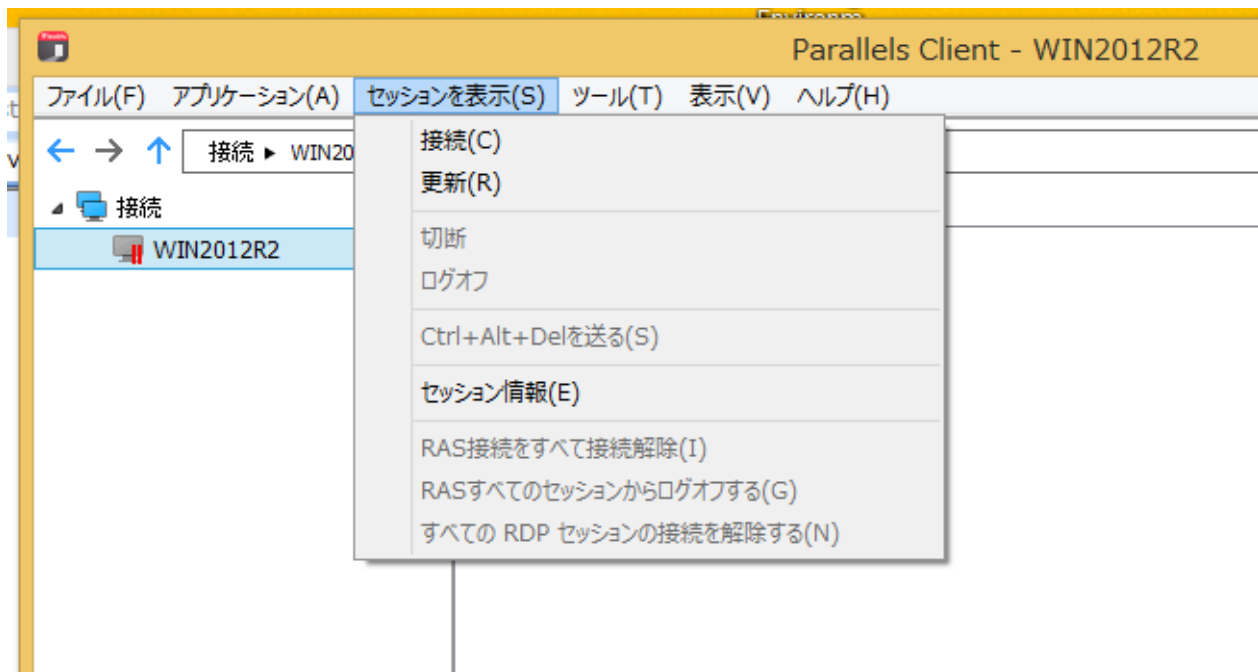
- キャッシュプリンターハードウェア情報：プリンターのハードウェア情報をローカルにキャッシュすると、RAS ユニバーサルプリンターのリダイレクトが速くなります。
- キャッシュ（RAS Universal Printing）埋め込みフォント：埋め込みフォントをローカルにキャッシュすると、RAS ユニバーサルプリントの処理時間が短くなります。
- DPI 対応：クライアントの DPI 設定に応じて、公開されたアプリケーションが強制的に DPI 対応になります。この機能は、Windows 8.1 以降で動作します。

RAS 接続の使用

Parallels Remote Application Server に接続するには、[接続] リストで接続をダブルクリックします（または右クリックして [接続] を選択します）。

複数のアクティブな接続（Remote Application Server と標準 RDP の両方）を同時に確立できます。Parallels Client でアクティブな接続を切り替えるには、左側のペインで切り替え先の接続をクリックするか、右側のペインで対応するタブページをクリックします。

Parallels Client からリモートサーバーに接続するたびに、その接続用にセッションが作成されます。セッションを管理するには、[接続] リストで接続を選択してから、[セッション] メニューをクリックします。



メニューには、セッション管理タスクを実行するために、次のオプションがあります。

- 接続：選択した接続設定を使用して Remote Application Server に接続します。選択した接続がアクティブな場合、このメニュー項目は無効になります。接続がアクティブかどうかによって、他のメニュー項目も無効になったり有効になったりします。

ヒント：アクティブな接続は [モニター] アイコンが青色に、アクティブではない接続は [モニター] アイコンがグレーになります。

- 最新の情報に更新：このオプションを使用して、セッション、および右側のペインの公開済みのリソースの表示を最新の状態に更新します。Parallels Remote Application Server 側で変更があった場合、Parallels Client 側で変更内容が反映されます。（上部の接続情報バーの横にある）[同期] アイコンを使用しても同じタスクを実行できます。
- 切断：選択された接続を切断します。
- ログオフ：Parallels Client をセッションからログオフします。
- Ctrl+Alt+Del キーを送信：このキーの組み合わせをリモートコンピューターに送信します。
- セッション情報：[セッション] ダイアログを開き、すべてのアクティブなセッションをリスト表示します。セッションを選択してから、[情報の表示] ボタンをクリックすると、詳細なセッション情報が表示されます。
- RAS 接続をすべて接続解除：すべてのアクティブな Remote Application Server セッションを切断します。
- RAS すべてのセッションからログオフする：すべてのアクティブな Remote Application Server セッションから Parallels Client をログオフします。
- すべての RDP セッションを切断する：すべてのアクティブな RDP セッションを切断します。

[接続] リストでアクティブな接続を右クリックすると、別のメニューにアクセスできます。メニューには次の項目があります。

- 接続：接続がアクティブな場合、この項目は無効になります。
- 最新の情報に更新：右側のペインの公開済みリソースの表示を更新します。
- 接続プロパティ：[接続プロパティ] ダイアログが開きます。このダイアログで接続を構成できます。詳細については、「RAS 接続の構成」を参照してください（p. 25）。
- 削除：接続を削除します。
- ドメインのパスワードを変更する：現在のユーザーのドメインパスワードを変更できます。この項目をクリックして [ログオン] ダイアログを開き、現在のパスワードを入力します。[OK] をクリックすると、[パスワードの変更] ダイアログが開きます。ここで、両方のフィールドに新しいパスワードを入力します。[OK] をクリックすると、ドメインのパスワードが変更されます。

- 表示されているすべてのアプリケーションのショートカットを作成する。メインウィンドウの右側のペインに表示されているすべての公開済みアプリケーションについて、ローカルデスクトップ上にショートカットを作成します。
- デスクトップからショートカットを削除する：[表示されているすべてのアプリケーションのショートカットを作成する] メニュー項目をクリックして作成したショートカットを削除します。
- 切断：Parallels Remote Application Server から切断します。
- ログオフ：Parallels Client をセッションからログオフします。

RDP 接続の使用

標準リモートデスクトップ接続を追加した後、その接続をダブルクリックする（または右クリックして [接続] を選択する）と、リモートコンピューターとの接続が確立されます。

複数のアクティブな接続（標準 RDP と Remote Application Server の両方）を同時に確立できます。Parallels Client でアクティブな接続を切り替えるには、左側のペインで切り替え先の接続をクリックするか、右側のペインで対応するタブページをクリックします。

[接続] リストでアクティブな RDP 接続を右クリックして、次のアクションを実行します。

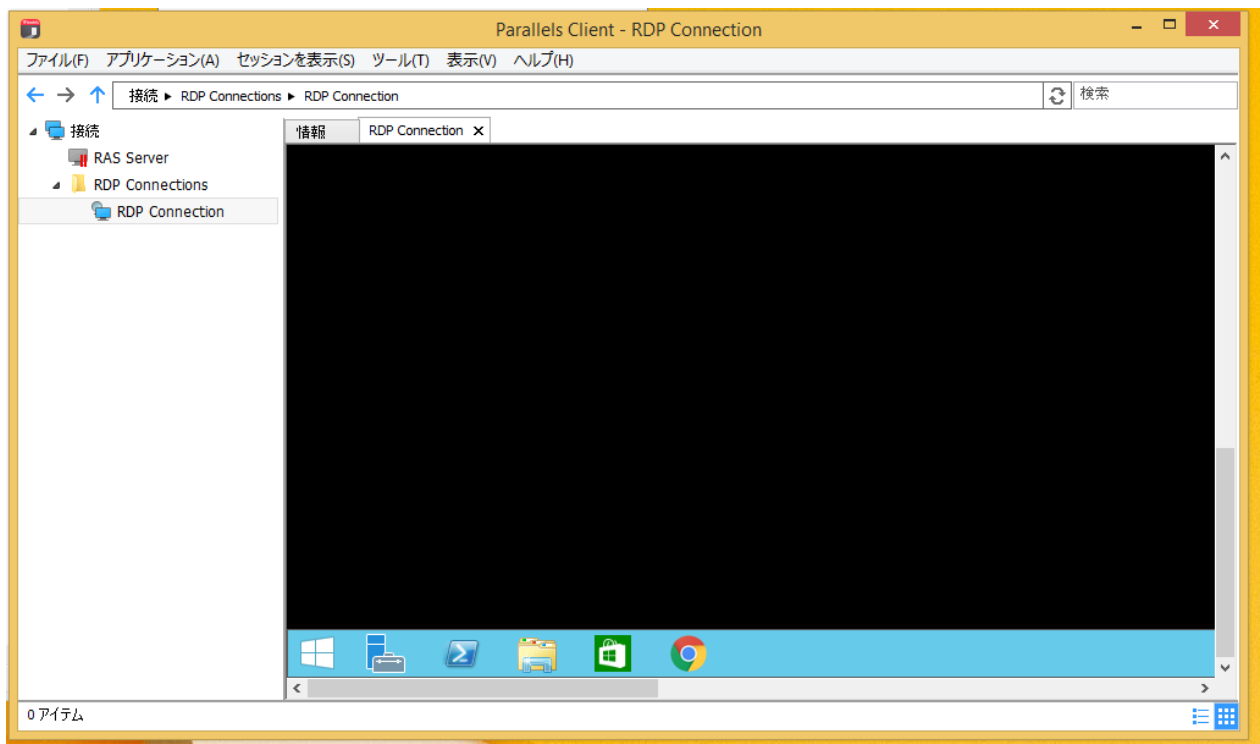
- 接続：アクティブな接続の場合、この項目は無効になります。
- 接続プロパティ：[接続プロパティ] ダイアログが開きます。このダイアログで接続を構成できます。詳細については、「RDP 接続の構成」を参照してください（p. 40）。
- 削除：接続を削除します。
- スマートサイズ：スマートサイズを有効にすると、利用できる領域に収まるようにリモートデスクトップのサイズが変更されます。
- ランチャ内で実行：この項目をクリックすると、リモートデスクトップが新しいウィンドウに移動します（メインの Parallels Client ウィンドウから切り離されて浮遊します）。リモートデスクトップを Parallels Client ウィンドウに戻すには、このメニュー項目を再度クリックします。
- デスクトップにショートカットを作成する：ローカルデスクトップにこの接続のショートカットを作成します。
- デスクトップからショートカットを削除する。デスクトップから接続のショートカットを削除します：

フォルダーを使用した RDP 接続のグループ化

メインの Parallels Client ウィンドウで、フォルダーを使用して標準の RDP 接続をグループ化できます。

フォルダーを作成し、RDP 接続をそのフォルダーに追加するには、次の操作を実行します。

- 1 メインの Parallels Client ウィンドウで、[ファイル] > [フォルダの追加] をクリックします。
- 2 フォルダー名を入力します。
- 3 RDP 接続をクリックして、作成したフォルダーにドラッグします。



Parallels Client 設定のエクスポートおよびインポート

現在の Parallels Client 設定をファイルにエクスポートとしてバックアップを作成できます。また、エクスポートした設定を、異なるコンピューターにインストールされた Parallels Client にインポートすることもできます。以下の設定をエクスポートできます。

- 個々のすべての接続プロパティを含む、既存のすべての接続。
- Parallels Client のグローバルオプション。

現在の Parallels Client 設定をエクスポートするには、メインメニューで [ファイル] をクリックし、[エクスポート設定] をクリックします。開いたダイアログで、ファイル名とエクスポート先のフォルダーを入力します。[保存] をクリックして設定をエクスポートします。ファイルが “.2xc” という拡張子付きで保存されます。

設定をインポートするには、[ファイル] > [インポート設定] をクリックします。開いたダイアログで、“.2xc” ファイルを選択し、[開く] をクリックします。ファイルに保存された Parallels Client 設定によって現在の Parallels Client 設定が上書きされます。

Parallels Client コマンドラインパラメーター

Windows 用 Parallels Client では、公開済みのアプリケーションやデスクトップをコマンドラインから起動する際に、パラメーターを指定できます。

パラメーター	注記
s!= 'プライマリサーバー'	プライマリサーバーのホスト名または IP アドレス。
b!= 'バックアップサーバー'	セカンダリサーバーのホスト名または IP アドレス。
a!= 'アプリケーション/デスクトップ ID'	公開済みのアプリケーション/デスクトップの ID。
p!= 'アプリケーションパラメーターの上書き'	
t!= 'ポート'	RAS Remote Application Serverconnection のポート。
u!= 'ユーザー名'	接続するユーザーのユーザー名。
q!= 'パスワード'	ユーザーのパスワード。
d!= 'ドメイン' (ユーザー名が UPN 形式の場合は無視される)	ドメイン名。
l!= '0/1' (0: プライマリサーバー、1: ユーザーバックアップサーバー)	プライマリサーバーまたはバックアップサーバーに接続するための値を指定します。
m!= '接続モード' (ゲートウェイモード = 0、ダイレクトモード = 1、SSL モード = 2、ダイレクト SSL = 3、ダイレクト RDP=4)	接続モードの値を指定します。

o!= '0/1' (1 に設定すると、SSO 情報が利用できる場合、資格情報が SSO 情報で上書きされる)	1 に設定すると、資格情報が SSO 資格情報で上書きされます。
i!= '接続のエイリアス'	接続のエイリアスを指定します。
c!	必ず資格情報を要求します。
r!	接続が拒否された場合に再接続します。

例:

- 1 コマンドプロンプトで、Parallels Client のインストール先に移動して、次のコマンドを実行します。

```
TSCClient.exe s!= '2008ad1.2x.testing' a!= '#50' t!= '80' d!= '2x.testing' u!= 'testerjm' q!= '123456' m!= '0'
```

```

C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\jonathanm>cd "C:\Program Files\2X\Client"

C:\Program Files\2X\Client>TSCClient.exe s!= 'TerminalServer_2.2x.testing' a!= '#92'
t!= '80' d!= '2x.testing' u!= 'testerjm' q!= '123456' m!= '0'

```

上のコマンドを実行すると、ID が 92 の公開済みのアプリケーションが、testerjm というユーザーに対して起動されます。

インデックス

P

Parallels Client コマンドラインパラメーター - 58

Parallels Client の手動インストール - 11

Parallels Client の手動によるダウンロードおよびインストール - 11

Parallels Client 設定のエクスポートおよびインポート - 57

Parallels Remote Application Server への接続 - 15

R

RAS 接続の使用 - 54

RAS 接続の構成 - 25

RDP 接続の使用 - 56

RDP 接続の構成 - 40

W

Windows 用 Parallels Client の使用 - 22

エ

エクスペリエンス - 37, 47

グ

グローバルオプションの構成 - 50

シ

システム要件 - 5

ス

スキャン - 34

スタートアップ - 5

ネ

ネットワーク - 38, 48

フ

フォルダーを使用した RDP 接続のグループ化 - 57

プ

プログラム - 46

ロ

ローカルリソース - 36, 45

印

印刷 - 31

招

招待メールを使用した Parallels Client のインストール - 5

接

接続 - 26, 41

新

新しい接続の追加 - 22

表

表示 - 29, 43

詳

詳細設定 - 38, 48

認

認証 - 38, 48

高

高度な Parallels Client インストール - 19